

TOSHIBA

東芝デジタル複合機

e-BRIDGE Plus for Zone OCR

取扱説明書

- このたびは弊社製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
- お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。

はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
本書は、e-BRIDGE Plus for Zone OCRを使って複合機でスキャンした原稿の特定領域（ゾーン）をOCR機能で読み取り、認識結果に応じてネットワーク共有フォルダーまたはクラウドに保存する方法について説明しています。また、付属のe-BRIDGE Tool for Zone OCRを使ってOCR機能で認識した結果を編集する方法も説明しています。お使いになる前に本書をよくお読みください。

■ 本書の読みかた

本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。

 警告	「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷*1を負う可能性があること」を示しています。
 注意	「誤った取り扱いをすると人が傷害*2を負う可能性、または物的損害*3が発生する可能性があること」を示しています。
 注意	操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。
 補足	操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。
	関連事項を説明している参照先を示しています。必要に応じて参照してください。

- *1 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。
- *2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。
- *3 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

本書の対象読者について

本書は一般使用者（ユーザー）および機器管理者向けの取扱説明書です。

本文中の画面について

お使いの機種やオプション機器の装着状況、インストールしているアプリケーションによっては、表示される画面が異なることがあります。

本文中の記載名称について

本書では、両面同時原稿送り装置と自動両面原稿送り装置を、どちらも「自動原稿送り装置」と記述して説明しています。

商標について

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標である場合があります。QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

e-BRIDGE Plus for Zone OCR/e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用する

e-BRIDGE Plus for Zone OCRとe-BRIDGE Tool for Zone OCRのセットアップと使い方を説明します。

このアプリケーションについて	6
セキュリティに関するご利用上の注意事項.....	6
管理者への説明.....	6
ユーザーへの説明.....	8
フォルダーやファイルの作成を決める設定.....	9
設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成.....	11
OCR結果ファイル.....	13
このアプリケーションを使用できるように準備する	20
このアプリケーションをインストールする.....	20
このアプリケーションの起動認証を設定する.....	21
操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する.....	22
パスコードを設定する.....	23
保存先のクラウドサービスを設定する.....	24
通知画面の表示設定を変更する.....	25
マーカーペンスキャンの設定を選択する.....	26
テンプレート用原稿をスキャンする.....	29
テンプレートを設定する.....	35
操作パネルから原稿をスキャンする	45
バーコードとスキャン動作について.....	45
テンプレートを使って原稿をスキャンする.....	45
マーカーペンで領域を指定して原稿をスキャンする.....	48
マルチクロップモードでスキャンする.....	59
バーコード付文書や2次元コードの印刷設定.....	63
e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用する	64
編集判断の目安.....	64
このツールをインストールする.....	66
このツールでファイルの保存先を登録する.....	67
このツールとクラウドサービスとを連携する.....	72
このツールでOCR結果ファイルを編集する.....	74
困ったときは	77

このアプリケーションについて

e-BRIDGE Plus for Zone OCR（本書では以降「このアプリケーション」と称します）は弊社のデジタル複合機（本書では「本機」と称します）にインストールして利用するアプリケーションです。以下のいずれかの方法で原稿内の指定領域（ゾーン）にある文字やバーコードをOCR機能で読み取って認識します。

- テンプレートスキャン：読み取る領域を指定したテンプレートを、管理者があらかじめ作成しておきます。ユーザーがテンプレートを選択して原稿をスキャンすると、このアプリケーションは指定領域の文字やバーコードを読み取って認識します。
- マーカーペンスキャン：ユーザーが原稿上で領域をマーカーペンで指定して原稿をスキャンすると、このアプリケーションは指定した領域にある文字やバーコードを読み取って認識します。

注意

- このアプリケーションを使用するためには、OCRオプションが必要です。また、このアプリケーションをご利用いただける複合機については、サービスエンジニアにお問い合わせください。
- テンプレートスキャン機能を利用するには、テンプレート用の原稿の準備をして、このアプリケーションでテンプレートを設定する必要があります。
- マーカーペンスキャン機能を利用するには、このアプリケーションでこの機能を有効にする必要があります（このアプリケーションの初期設定のままでは、この機能は使用できません）。

文字やバーコードの認識結果に応じて、以下のいずれかの方法で指定したフォルダーにスキャンした原稿のファイルを保存します。この機能により、ファイル名を付けたり保存先フォルダーを作成する手間を省くことができます。

- 認識結果と同じ名前のサブフォルダーを指定したフォルダー内に作成し、そのサブフォルダー内に所定の名前でファイルを保存します。
- 認識結果と同じファイル名を付けて、指定したフォルダーに保存します。

OCR機能で認識した情報（OCR認識結果）を、XMLまたはCSVファイル（OCR結果ファイル）に記録して、スキャンした原稿のファイルと一緒に保存することもできます。この機能は、ファイル管理に利用できます。

このアプリケーションには、Windowsにインストールして使用するe-BRIDGE Tool for Zone OCR（本書では以降「このツール」と称します）が添付されています。このツールは、OCR認識結果を記録したXMLまたはCSVファイルを編集することができます。

このアプリケーションが作るフォルダーやファイルについては、以下の参照先をご覧ください。特に管理者は、このアプリケーションをセットアップする際に参考にしてください。

- 📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
- 📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
- 📖 P.13 「OCR結果ファイル」

補足

強調文字で記載する設定値は、初期設定を表します。

■ セキュリティに関するご利用上の注意事項

このアプリケーションに接続して使用するコンピューターに搭載されているOSは、常に最新の状態でお使いください。

■ 管理者への説明

管理者は、以下の項目を確認してからこのアプリケーションをセットアップしてください。準備やセットアップにはTopAccessを使用しますので、操作方法や設定画面について詳しくは**TopAccessガイド/TopAccess**を参照してください。

チェックポイント

はじめに、管理者は以下の点を確認してください。

- このアプリケーションを使用できる複合機（機種）である必要があります。
- このアプリケーションを試用期間後も継続して使用するには、ライセンスを有効化する必要があります。

- 領域の情報をスキャンして認識するために、本機にOCRオプション（ライセンス）がインストールされている必要があります。
- 本機はスキャンした原稿を強制的に暗号化PDF（セキュアPDF）として保存するように設定できます。これを暗号化PDF強制モードと呼びます。このアプリケーションを使うには、暗号化PDF強制モードを無効にする必要があります。
- スキャンしたファイルをSMBサーバーのネットワークフォルダーに保存する場合、本機をネットワーク環境に接続し、外部ファイルサーバーに共有フォルダーを作成してください。TopAccessからファイル共有機能をあらかじめ設定する必要があります。
- スキャンしたファイルをクラウドにアップロードして保存する場合および、e-BRIDGE Tool for Zone OCRとクラウドサービスとを連携する場合
 - 各社の提供するクラウドサービスのアカウントが必要です。
 - 各社の提供するクラウドサービスと接続します。プロキシサーバー接続などのネットワーク環境の設定を確認してください。また、利用時にアプリケーションとクラウドサービスとの接続について利用許可する必要があります。
 - 本機の時計を正しい時刻に設定する必要があります。時刻が正しくないと証明書の検証に失敗してネットワークに接続できない場合があります。
 - このアプリケーションの利用を中止する場合は、安全のためクラウドサービス側で、このアプリケーションへの利用許可を削除してください。

□ セットアップ

ユーザーがこのアプリケーションを本機で利用できるように、管理者はTopAccessを使ってあらかじめ準備する必要があります。管理者は本書の以下の各説明を順にお読みいただき、このアプリケーションをセットアップしてください。

1. このアプリケーションを本機にインストールします。
 ☞ P.20 「このアプリケーションをインストールする」
2. このアプリケーションの起動時に、認証するかどうかを設定します。
 ☞ P.21 「このアプリケーションの起動認証を設定する」
3. 操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録します。
 ☞ P.22 「操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する」
4. 管理者がこのアプリケーションでテンプレートを作成する際に必要なパスコードを設定します。
 ☞ P.23 「パスコードを設定する」
5. スキャンしたファイルをクラウドにアップロードして保存する場合は、保存先に指定するクラウドサービスを登録します。
 ☞ P.24 「保存先のクラウドサービスを設定する」
6. このアプリケーションの起動時に表示する、通知画面の表示設定を変更します。
 ☞ P.25 「通知画面の表示設定を変更する」
7. マーカーペンで指定した領域にある文字やバーコードを認識してファイルを保存できるように、ファイルの保存先を設定します。
 ☞ P.26 「マーカーペンスキャンの設定を選択する」
 設定に応じてフォルダーやファイルが作成されます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。
 ☞ P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
 ☞ P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
 ☞ P.13 「OCR結果ファイル」
8. ユーザーが操作パネルから簡単に原稿をスキャンして指定したフォルダーにファイルを保存できるように、元となる原稿をスキャンして、テンプレートとして設定します。
 ☞ P.29 「テンプレート用原稿をスキャンする」
 ☞ P.35 「テンプレートを設定する」
 設定に応じてフォルダーやファイルが作成されます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。
 ☞ P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
 ☞ P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
 ☞ P.13 「OCR結果ファイル」

9. ユーザーによるOCR結果ファイルの編集を管理、制限する場合は、管理者がe-BRIDGE Tool for Zone OCRをWindowsがインストールされているコンピューターにインストールして、作業対象のフォルダーを登録します。管理しない場合は、このツールのインストール方法や使用方法をユーザーにお知らせください。
☞ P.64 「e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用する」

管理者もユーザーとして原稿をスキャンして指定したフォルダーにファイルを保存することができます。操作の概要については以下の参照先をご覧ください。

☞ P.8 「ユーザーへの説明」

また、トラブルが発生した場合は、本機の操作パネルにメッセージを表示したり、TopAccessのアプリケーションログにメッセージが残ります。以下の参照先で、ログを確認して対処してください。

☞ P.77 「困ったときは」

■ ユーザーへの説明

このアプリケーションを使い、以下の方法で原稿をスキャンしてネットワークの共有フォルダーまたはクラウドへファイルを保存できます。また、必要に応じてe-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用してOCR結果ファイルを編集できます。困ったときは、以下の参照先をご覧ください。

☞ P.77 「困ったときは」

□ テンプレートを選択してスキャンする

管理者があらかじめ設定したテンプレートを操作パネルから選択して、そのテンプレートに合った原稿をスキャンします。テンプレートで指定された領域にある文字またはバーコードを読み取り、認識結果と同じ名前のサブフォルダーを指定したフォルダー内に作成してファイルを保存するか、認識結果と同じファイル名にして指定したフォルダー内にファイルを保存します。また、認識結果はXMLまたはCSV形式のファイルに保存できます。

☞ P.45 「テンプレートを使って原稿をスキャンする」

□ マーカーペンで文字やバーコードの領域を指定してスキャンする

ユーザーは原稿上にマーカーペンで領域を指定して、その原稿をスキャンします。このアプリケーションは、その指定された領域にある文字またはバーコードを読み取り、認識結果と同じ名前のサブフォルダーを指定したフォルダー内に作成してファイルを保存するか、認識結果と同じ名前にして指定したフォルダー内にファイルを保存します。また、認識結果はXMLまたはCSV形式のファイルに保存できます。

☞ P.48 「マーカーペンで領域を指定して原稿をスキャンする」

□ OCR結果ファイルを編集する

OCR結果ファイルを編集する場合は、e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用します。編集作業が管理、制限されていない場合は、ユーザー自身でこのツールを使用できるように準備してください。

☞ P.64 「e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用する」

補 足

このツールはWindowsで動作するアプリケーションです。編集者のコンピューターにインストールして使用できます。

■ フォルダーやファイルの作成を決める設定

このアプリケーションを使ってスキャンされた原稿のファイルは、以下の設定の組み合わせに応じて指定のフォルダー（またはその中のサブフォルダー）内にTIFFまたはPDFファイルとして保存されます。詳細は以下の参照先をご覧ください。

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

認識結果の利用

OCR認識結果をフォルダー名またはファイル名にすることができます。名前に使用できない文字は、アンダースコア「_」に置き換えられます。名前が最大192バイトより長い場合は、末尾の超過部分は切り取られます。

テンプレートスキャン：📖 P.39 「認識結果の利用」

マーカーペンスキャン：📖 P.56 「OCR認識結果」

OCR認識結果を利用しない場合は、ファイル名やフォルダー名は以下の規則に従って所定の名前が付けられます。

DOCyymmddhhmmss-デバイス名

- 「yymmddhhmmss」は年、月、日、時、分、秒を各2桁で表します。
- 「デバイス名」は、原稿をスキャンしたデバイスの名前を表します。

例：DOC181001093001-MFP12345.tif、DOC181001093005-MFP12345.pdf

領域の情報を認識できない場合は、「NotRecognized」をフォルダー名またはファイル名にします。

- テンプレートで指定した領域に文字やバーコードがない場合
- テンプレートで指定した領域の文字やバーコードが認識できない場合
- マーカーペンスキャンで [塗りつぶし] に [フォルダー名] または [ファイル名] を指定したにもかかわらず、塗りつぶし領域がない場合
- マーカーペンスキャンで [囲み] に [フォルダー名] または [ファイル名] を指定したにもかかわらず、囲み領域がない場合

結果ファイル形式

OCR認識結果をXMLまたはCSVファイルに記録して保存できます。

テンプレートスキャン：📖 P.41 「結果ファイル形式」

マーカーペンスキャン：📖 P.57 「結果ファイル形式」

このOCR結果ファイルは、スキャンされた原稿のファイルと同じフォルダーに同じ名前で作成されます（拡張子が異なります）。OCR結果ファイルの内容については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.13 「OCR結果ファイル」

画像ファイル形式

ファイルの保存形式によって、ファイル名が決まります。

テンプレートスキャン：📖 P.43 「画像ファイル形式」

マーカーペンスキャン：📖 P.57 「画像ファイル形式」

- シングルページファイル形式（TIFF - シングル、PDF - シングル、PDF（OCR） - シングル）を選択した場合、スキャンされたページは別々のファイル名で保存されます。ファイル名の末尾に4桁のページ番号が付きます。なお、TopAccessで設定する [シングルページファイルの保存場所] の設定によって、保存方法が異なります。
- マルチページファイル形式（TIFF - マルチ、PDF - マルチ、PDF（OCR） - マルチ）を選択した場合、スキャンされたページは1つのファイル名でまとめて保存されます。

OCR精度によるフォルダー分類

領域の情報を認識するOCR精度に応じて、指定したフォルダー内直下にサブフォルダーを作成してファイルを振り分けて保存できます。

テンプレートスキャン：📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」

マーカーペンスキャン：📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」

OCR精度を決める [分類条件] は、[OCRの確度] と [正規表現による検証結果] の2つがあります。設定に応じて、OCR認識精度が高いファイルを「HighAccuracy」フォルダーへ、精度の低いファイルを「LowAccuracy」フォルダーへ振り分けて保存できます（フォルダー名は変更できます）。

- OCRの確度：OCR機能が、認識確度を判定します。
- 正規表現による検証結果：このアプリケーションは、認識した文字列が指定した正規表現と同じかどうかを判定します。

テンプレートスキャン：📖 P.39 「認識結果の検証」

マーカーペンスキャン：📖 P.28 「認識結果の検証」

補足

正規表現は、特殊な表記ルールに従って検索や比較パターンを表す文字列です。このアプリケーションでは、領域で認識されるべき文字列を示す正規表現をあらかじめ指定することで、OCR認識結果（文字）と比較できます。領域（認識結果）のうち、正規表現に一致しない領域が1つでもあると、このアプリケーションは所定のサブフォルダーにファイルを振り分けて保存できます。ここでは簡単な例を紹介します。正規表現を使って、認識結果の妥当性確認（バリデーション）を行うことができます。

正規表現の例	説明
20@d{2}/@d{1,2}/@d{1,2}	この正規表現は、「2018/08/01」や「2019/1/20」のように、2000年以降の年・月・日を「/」で仕切って表します。
(?i)(invoice)-@d{4}	この正規表現は、「invoice-0001」や「INVOICE-1234」のように、特定文字列と4桁の数字を表します。
(?i)((DO) (Delivery Order))-ld{4}	この正規表現は、「DO-0001」や「Delivery Order-1234」のように、2種類の文字列どちらかと4桁の数字を表します。
PN-[A-Z]{2}-@d{4}.*	この正規表現は、「PN-AA-1234」や「PN-ZZ-9999 Minor Change Model」のように、特定文字列と4桁の数字で始まる文字や数字の組み合わせを表します。

■ 設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成

ファイルやフォルダーは、設定の組み合わせに応じて作成されます。すでに同名ファイルがある場合は、新しいファイル名の末尾に数字（例0001、0002）を付けて区別します。数字の桁数は、TopAccessの「管理者」 - 「セットアップ」 - 「共有フォルダーに保管」 - 「フォーマット」 - 「サブIDフォーマット」の設定に依存します。

以下の例では、共有フォルダーを「¥¥share」とし、所定のファイル名を「DOCxxx」と省略しています。

【画像ファイル形式】からシングルページファイル形式を選択する場合

- 領域のうち任意の領域Xともう1つの任意の領域Yで、「認識結果の利用」を以下のとおり設定します。
- TopAccessを起動して、「管理者」 - 「セットアップ」 - 「共有フォルダーに保管」 - 「シングルページファイルの保存場所」を以下のとおり設定します。

領域X 認識結果の利用	領域Y 認識結果の利用	シングルページファイルの保存場所	フォルダーとファイルの作成方法	フォルダーとファイルの作成例 (2ページスキャン時)
フォルダー・ファイル名に利用しない	フォルダー・ファイル名に利用しない	サブフォルダーを作成せずに保存	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：なし ファイル：既定の名前-ページ番号 	¥¥share¥ DOCxxx-0001.tif DOCxxx-0002.tif XMLファイル作成時 ¥¥share¥ DOCxxx-0001.tif DOCxxx-0001.xml DOCxxx-0002.tif DOCxxx-0002.xml OCR精度による分類時 ¥¥share¥HighAccuracy¥ DOCxxx-0001.tif ¥¥share¥LowAccuracy¥ DOCxxx-0002.tif
		サブフォルダーを作成し保存	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：既定の名前 ファイル：Page-ページ番号 	¥¥share¥DOCxxx¥ Page-0001.tif Page-0002.tif
	ファイル名にする	サブフォルダーを作成せずに保存	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：なし ファイル：領域Yの認識結果 	¥¥share¥ 領域Y1.tif 領域Y2.tif 同名ファイルがある場合 ¥¥share¥ 領域Y1-0001.tif 領域Y1-0002.tif 領域Y2-0001.tif 領域Y2-0002.tif
		サブフォルダーを作成し保存	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：既定の名前 ファイル：領域Yの認識結果 	¥¥share¥DOCxxx¥ 領域Y1.tif 領域Y2.tif

領域X 認識結果の利用	領域Y 認識結果の利用	シングルページファイルの保存場所	フォルダーとファイルの作成方法	フォルダーとファイルの作成例 (2ページスキャン時)
フォルダー名にする	フォルダー・ファイル名に利用しない	- (どちらに設定しても影響はありません)	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：領域Xの認識結果 ファイル：既定の名前 	¥¥share¥領域X1¥ DOCxxx.tif ¥¥share¥領域X2¥ DOCxxx.tif
	ファイル名にする	- (どちらに設定しても影響はありません)	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：領域Xの認識結果 ファイル：領域Yの認識結果 	¥¥share¥領域X1¥ 領域Y1.tif ¥¥share¥領域X2¥ 領域Y2.tif OCR精度による分類時 ¥¥share¥HighAccuracy¥領域X1¥ 領域Y1.tif ¥¥share¥LowAccuracy¥領域X2¥ 領域Y2.tif

【画像ファイル形式】 からマルチページファイル形式を選択する場合

領域のうち任意の領域Xともう1つの任意の領域Yで、【認識結果の利用】を以下のとおり設定します。

領域X 認識結果の利用	領域Y 認識結果の利用	フォルダーとファイルの作成方法	フォルダーとファイルの作成例
フォルダー・ファイル名に利用しない	フォルダー・ファイル名に利用しない	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：なし ファイル：既定の名前 	¥¥share¥ DOCxxx.tif XMLファイル作成時 ¥¥share¥ DOCxxx.tif DOCxxx.xml
	ファイル名にする	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：なし ファイル：領域Yの認識結果 	¥¥share¥ 領域Y.tif
フォルダー名にする	フォルダー・ファイル名に利用しない	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：領域Xの認識結果 ファイル：既定の名前 	¥¥share¥領域X¥ DOCxxx.tif OCR精度による分類時 ¥¥share¥HighAccuracy¥領域X¥ DOCxxx.tif
	ファイル名にする	<ul style="list-style-type: none"> サブフォルダー：領域Xの認識結果 ファイル：領域Yの認識結果 	¥¥share¥領域X¥ 領域Y.tif OCR精度による分類時 ¥¥share¥LowAccuracy¥領域X¥ 領域Y.tif

■ OCR結果ファイル

領域から読み取った情報を保存するOCR結果ファイル（XMLまたはCSVファイル）の内容について説明します。

□ XMLファイル

[結果ファイル形式] から [XML] を選択した場合は、以下の要素と値から成るXMLファイルが作成されます。

- 文字コード：UTF-8 BOMあり（固定）
- 改行コード：LF
- 名前空間：<http://www.toshibatec.co.jp/e-BRIDGE/plus/ocr>

要素名	説明
RecognizedResult	<ul style="list-style-type: none"> • ルート要素
JobStartedTime	<ul style="list-style-type: none"> • スキャンジョブを開始した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒）
ResultStoredTime	<ul style="list-style-type: none"> • 画像ファイル、認識結果ファイルを保存した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒）
ResultFixedTime	<ul style="list-style-type: none"> • 認識結果を修正した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒） • このアプリケーションがファイルを作成する際は、この要素は作成されません。 • e-BRIDGE Tool for Zone OCRでファイルを編集すると、この要素を作成して編集日時を示す値を追加します。
MFPSerialNumber	<ul style="list-style-type: none"> • 本機のシリアル番号
UserName	<ul style="list-style-type: none"> • 本機のログインユーザー名 • 本機のユーザー認証が無効の場合、空の要素が作成されます。
Template	<ul style="list-style-type: none"> • テンプレートを表す親要素 • マーカーペンスキャンの場合、この要素は作成されません。
Name	<ul style="list-style-type: none"> • テンプレート名 ☞ P.37 「テンプレート名」
Pages	<ul style="list-style-type: none"> • 認識したページを表す親要素
Page	<ul style="list-style-type: none"> • 認識したページ • 認識結果にかかわらず、認識を試みたページの数だけ作成されます。 • 属性 No：常に1です。
Zone	<ul style="list-style-type: none"> • 認識したテキスト、バーコード領域 • 認識結果にかかわらず、認識を試みた領域の数だけ作成されます。 • 属性 No：領域の番号 - テンプレートスキャン：[領域] リストの番号 - マーカーペンスキャン：認識した順番

要素名	説明
Name	<ul style="list-style-type: none"> テンプレートスキャンの場合は領域名が出力されます。 マーカーペンスキャンの場合は以下の値が出力されます。 #は領域が認識された順番を示します。 - 塗りつぶし領域：Highlight# - 囲み領域：Box# 例（塗りつぶし、囲み、塗りつぶしと検出された場合）： Highlight1, Box1, Highlight2
Text	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果 以下の場合、値が空の要素として作成されます。 - 認識を試みたものの文字またはバーコードが1つも認識できなかった - 指定された領域が画像の範囲外だった - バーコードの読み取りに失敗した 改行コード（CR または LF）は、アンダースコア「_」に変換されます。 特定の文字（" ' < > & ）は、XMLの仕様に従ってXMLエスケープ文字に置き換えられます。
Type	<ul style="list-style-type: none"> 領域の種類を表す以下の値が出力されます。 - テキスト領域：Text - バーコード領域：Barcode テンプレートスキャン：📖 P.39 「領域種類」 マーカーペンスキャン：📖 P.51 「マーカーペンスキャンの手順」
Left	<ul style="list-style-type: none"> 領域の左端のX座標（ピクセル）*
Top	<ul style="list-style-type: none"> 領域の上端のY座標（ピクセル）*
Right	<ul style="list-style-type: none"> 領域の右端のX座標（ピクセル）*
Bottom	<ul style="list-style-type: none"> 領域の下端のY座標（ピクセル）*
Highlighter	<ul style="list-style-type: none"> マーカーペンの塗り方を表す以下の値が出力されます。 - 囲み：Box - 塗りつぶし：Highlight 📖 P.56 「OCR認識結果」 <ul style="list-style-type: none"> テンプレートスキャンの場合、この要素は作成されません。
Usage	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果の利用方法を表す以下の値が出力されます。 - フォルダー名にする：FolderName - ファイル名にする：FileName - フォルダー・ファイル名に利用しない：None テンプレートスキャン：📖 P.39 「認識結果の利用」 マーカーペンスキャン：📖 P.56 「OCR認識結果」
Suspicious	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果の疑わしさを表す以下の値が出力されます。 - 結果の確度が低い：true - 結果の確度が高い：false - バーコード領域：常にfalse テンプレートスキャン：📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン：📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」

要素名	説明
RegexMatch	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果を指定正規表現と比較検証した結果を表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 認識結果が正規表現に一致する：true - 認識結果が正規表現に一致しない：false テンプレートスキャン： <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.39 「認識結果の検証」 📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン： <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.59 「認識結果の検証」 📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」 正規表現が設定されていない場合、この要素は作成されません。 操作パネルの [マーカーペンスキャン (テキスト)] または [マーカーペンスキャン (バーコード)] 画面で [認識結果の検証] を [OFF] に設定している場合、この要素は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.59 「認識結果の検証」
RegexPattern	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果の検証に用いた正規表現 <ul style="list-style-type: none"> テンプレートスキャン：📖 P.39 「認識結果の検証」 マーカーペンスキャン：📖 P.28 「認識結果の検証」 正規表現が設定されていない場合、この要素は作成されません。 操作パネルの [マーカーペンスキャン (テキスト)] または [マーカーペンスキャン (バーコード)] 画面で [認識結果の検証] を [OFF] に設定している場合、この要素は作成されません。 <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.59 「認識結果の検証」
NeedToVerify	<ul style="list-style-type: none"> [OCR精度によるフォルダー分類] - [結果を分類する] が有効の場合、条件に応じて以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - [OCRの確度] が選択、かつSuspicious要素がtrue：true - [正規表現による検証結果] が選択、かつRegexMatch要素がfalse：true - 上記以外：false テンプレートスキャン：📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン：📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」 [結果を分類する] が無効の場合、この要素は作成されません。
NeedToVerifyReasons	<ul style="list-style-type: none"> 複数作成されるNeedToVerifyReason要素の親要素 NeedToVerify要素がtrueの場合に、この要素は作成されます。

要素名	説明
NeedToVerifyReason	<ul style="list-style-type: none"> <p>[OCR精度によるフォルダー分類] - [結果を分類する] が有効の場合、条件に応じて以下の値を持つNeedToVerifyReason要素が作成されます。</p> <p>[ケース1]</p> <pre><NeedToVerifyReasons> <NeedToVerifyReason>Suspicious</NeedToVerifyReason> </NeedToVerifyReasons></pre> <p>[ケース2]</p> <pre><NeedToVerifyReasons> <NeedToVerifyReason>RegexMismatch</NeedToVerifyReason> </NeedToVerifyReasons></pre> <p>[ケース3]</p> <pre><NeedToVerifyReasons> <NeedToVerifyReason>Suspicious</NeedToVerifyReason> <NeedToVerifyReason>RegexMismatch</NeedToVerifyReason> </NeedToVerifyReasons></pre> <p>[下記のような出力にはなりません]</p> <pre><NeedToVerifyReasons> <NeedToVerifyReason>Suspicious,RegexMismatch</ NeedToVerifyReason> </NeedToVerifyReasons></pre> <p>テンプレートスキャン：  P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」</p> <p>マーカーペンスキャン：  P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」</p>

*領域の座標は、スキャン画像の左上を原点としたピクセル単位の値で表します。

□ CSVファイル

[結果ファイル形式] から [CSV] を選択した場合は、以下の値（コラム名を含む）から成るCSVファイルが作成されます。

- 文字コード：UTF-8 BOMあり（固定）
- 改行コード：LF
- すべてのフィールドはダブルクォーテーション（"）で囲まれます。
- 各フィールドはコンマ（,）で区切られ、行末（レコード終端）にはコンマは付きません。
- フィールドにダブルクォーテーション（"）が含まれている場合は、ダブルクォーテーションを2つ続けて出力します。
- マーカーペンスキャン時に、マーカーペンの塗りや囲みがない場合や認識できない場合は、PageNo、JobStartedTime、ResultStoredTime以外のフィールドにはすべて空文字（"）が出力されます。

第1レコード内の列名	説明
PageNo	<ul style="list-style-type: none"> • ページ番号 • 常に1です。
JobStartedTime	<ul style="list-style-type: none"> • スキャンジョブを開始した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒）
ResultStoredTime	<ul style="list-style-type: none"> • 画像ファイル、認識結果ファイルを保存した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒）
ResultFixedTime	<ul style="list-style-type: none"> • 認識結果を修正した日時（ローカル時刻） • 形式：yyyy-MM-ddThh:mm:ss（年-月-日T時-分-秒） • このアプリケーションがファイルを作成する際は、空文字（"）が出力されます。 • e-BRIDGE Tool for Zone OCRでファイルを編集すると、このフィールドに編集日時を示す値を追加します。
MFPSerialNumber	<ul style="list-style-type: none"> • 本機のシリアル番号
UserName	<ul style="list-style-type: none"> • 本機のログインユーザー名 • 認証が無効の場合、空文字（"）が出力されます。
TemplateName	<ul style="list-style-type: none"> • テンプレート名 •  P.37 「テンプレート名」 • マーカーペンスキャンの場合、この列は作成されません。
ZoneNo	<ul style="list-style-type: none"> • 領域の番号 - テンプレートスキャン：[領域] リストの番号 - マーカーペンスキャン：認識した順番
ZoneName	<ul style="list-style-type: none"> • テンプレートスキャンの場合は領域名が出力されます。 • マーカーペンスキャンの場合は以下の値が出力されます。 #は領域が認識された順番を示します。 - 塗りつぶし領域：Highlight# - 囲み領域：Box# 例（塗りつぶし、囲み、塗りつぶしと検出された場合）： Highlight1, Box1, Highlight2
Text	<ul style="list-style-type: none"> • 認識結果 • 以下の場合、空文字（"）が出力されます。 - 認識を試みたものの文字またはバーコードが1つも認識できなかった - 指定された領域が画像の範囲外だった - バーコードの読み取りに失敗した • 改行コード（CR または LF）は、アンダースコア「_」に変換されます。

第1レコード内の列名	説明
Type	<ul style="list-style-type: none"> 領域の種類を表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - テキスト領域：Text - バーコード領域：Barcode テンプレートスキャン：📖 P.39 「領域種類」 マーカーペンスキャン：📖 P.51 「マーカーペンスキャンの手順」
Left	<ul style="list-style-type: none"> 領域の左端のX座標（ピクセル）*
Top	<ul style="list-style-type: none"> 領域の上端のY座標（ピクセル）*
Right	<ul style="list-style-type: none"> 領域の右端のX座標（ピクセル）*
Bottom	<ul style="list-style-type: none"> 領域の下端のY座標（ピクセル）*
Highlighter	<ul style="list-style-type: none"> マーカーペンの塗り方を表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 囲み：Box - 塗りつぶし：Highlight 📖 P.56 「OCR認識結果」 テンプレートスキャンの場合、この列は作成されません。
Usage	<ul style="list-style-type: none"> 領域の認識結果の利用方法を表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - フォルダー名にする：FolderName - ファイル名にする：FileName - フォルダー・ファイル名に利用しない：None テンプレートスキャン：📖 P.39 「認識結果の利用」 マーカーペンスキャン：📖 P.56 「OCR認識結果」
Suspicious	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果の疑わしさを表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 結果の確度が低い：true - 結果の確度が高い：false - バーコード領域：常にfalse テンプレートスキャン：📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン：📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」
RegexMatch	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果を指定正規表現と比較検証した結果を表す以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 認識結果が正規表現に一致する：true - 認識結果が正規表現に一致しない：false テンプレートスキャン： <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.39 「認識結果の検証」 📖 P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン： <ul style="list-style-type: none"> 📖 P.59 「認識結果の検証」 📖 P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」 正規表現が設定されていない場合、空文字（""）が出力されます。 操作パネルの [マーカーペンスキャン (テキスト)] または [マーカーペンスキャン (バーコード)] 画面で [認識結果の検証] を [OFF] に設定している場合、空文字（""）が出力されます。 📖 P.59 「認識結果の検証」

第1レコード内の列名	説明
RegexPattern	<ul style="list-style-type: none"> 認識結果の検証に用いた正規表現 テンプレートスキャン：☞ P.39 「認識結果の検証」 マーカーペンスキャン：☞ P.28 「認識結果の検証」 正規表現が設定されていない場合、空文字（" "）が出力されます。 操作パネルの「マーカーペンスキャン（テキスト）」または「マーカーペンスキャン（バーコード）」画面で「認識結果の検証」を「OFF」に設定している場合、空文字（" "）が出力されます。 ☞ P.59 「認識結果の検証」
NeedToVerify	<ul style="list-style-type: none"> 「OCR精度によるフォルダー分類」 - 「結果を分類する」が有効の場合、条件に応じて以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 「OCRの確度」が選択、かつSuspicious値がtrue：true - 「正規表現による検証結果」が選択、かつRegexMatch値がfalse：true - 上記以外：false テンプレートスキャン：☞ P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン：☞ P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」 「結果を分類する」が無効の場合、この列は作成されません。
NeedToVerifyReasons	<ul style="list-style-type: none"> 「OCR精度によるフォルダー分類」 - 「結果を分類する」が有効の場合、条件に応じて以下の値が出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> - 「OCRの確度」が選択、かつSuspicious値がtrue：Suspicious - 「正規表現による検証結果」が選択、かつRegexMatch値がfalse：RegexMismatch - 上記両方の条件が満たされる場合：Suspicious,RegexMismatch（値をコンマで区切る） テンプレートスキャン：☞ P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」 マーカーペンスキャン：☞ P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」 「結果を分類する」が無効の場合、この列は作成されません。

* 領域の座標は、スキャン画像の左上を原点としたピクセル単位の値で表します。

このアプリケーションを使用できるように準備する

管理者は、以下の手順に従ってこのアプリケーションをセットアップしてください。

■ このアプリケーションをインストールする

本機のTopAccessからこのアプリケーションをインストールします。

注意

アプリケーションをインストールするには、管理者権限でTopAccessにログインする必要があります。TopAccessの操作方法については、**TopAccessガイド/TopAccess**をご参照ください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[インストール] をクリックします。

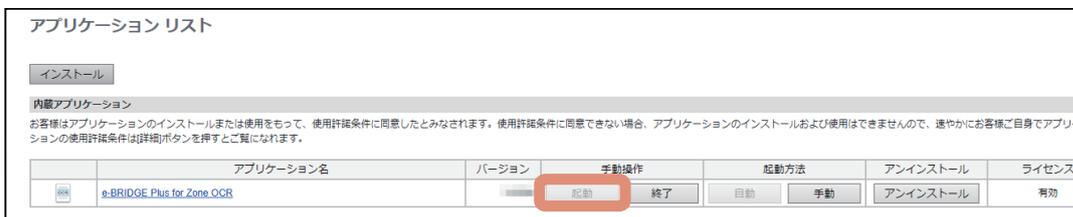


- 3 [ファイルの選択*] をクリックしてe-BRIDGE Plus for Zone OCRのインストールファイルを選択し、[インポート] をクリックしたら画面の指示に従ってインストールします。

* [ファイルの選択] のボタン名称は、ブラウザによって異なります。



- 4 このアプリケーションが起動していることを確認します ([起動] が薄く見えます)。



補足

[アプリケーションリスト] に登録したこのアプリケーションに対して、以下のボタンを操作できます。

- [終了] をクリックすると、このアプリケーションは終了します。
- [自動] をクリックすると、このアプリケーションは自動的に起動します。常に手動で起動するには、[手動] をクリックします。
- [アンインストール] をクリックすると、このアプリケーションを本機から削除できます。
- [詳細] をクリックすると、このアプリケーションの詳細情報を確認できます。

■ このアプリケーションの起動認証を設定する

このアプリケーションの起動時に認証するかどうかを、本機のTopAccessから設定します。

注意

認証を設定するには、管理者権限でTopAccessにログインする必要があります。TopAccessの操作方法については、**TopAccessガイド/TopAccess**を参照してください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] の [詳細] をクリックします。

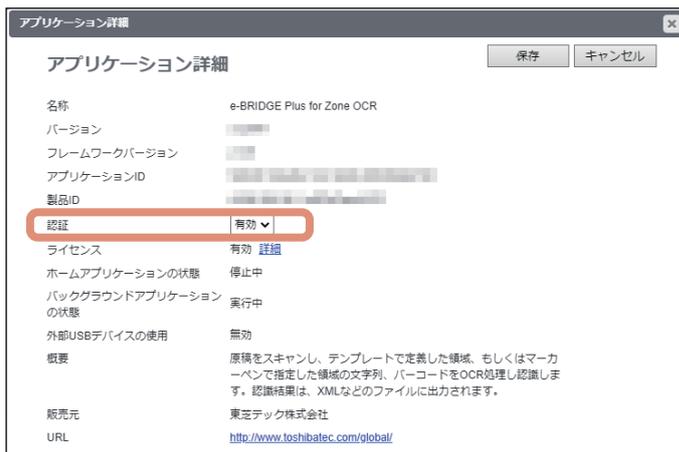


- 3 [認証] から [有効] または [無効] を選択します。

- **有効**：操作パネルのホーム画面からこのアプリケーションを起動するたびに、部門またはユーザー認証が必要です。
- **無効**：[部門管理設定] や [ユーザー認証設定] の [スキャン] が有効な場合は、このアプリケーションからスキャン操作を実行する際に認証が必要です。各機能の認証が無効に設定されている場合は、認証は必要ありません。

補足

各機能の機能設定方法については、**TopAccessガイド/TopAccess**を参照してください。



- 4 [保存] クリックします。

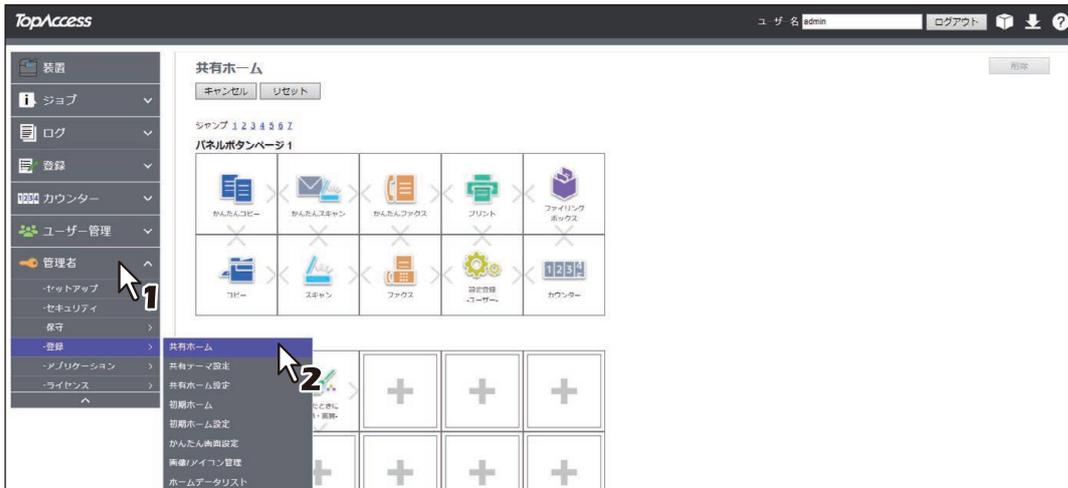
■ 操作パネルのホーム画面にこのアプリケーションを登録する

ユーザーが本機の操作パネルからこのアプリケーションを利用できるように、操作パネルまたはTopAccessからこのアプリケーションを登録します。本書では、TopAccessからの登録方法を説明します。詳しくは、**TopAccessガイド/TopAccess**または**かんたん操作ガイド/基本操作**を参照してください。

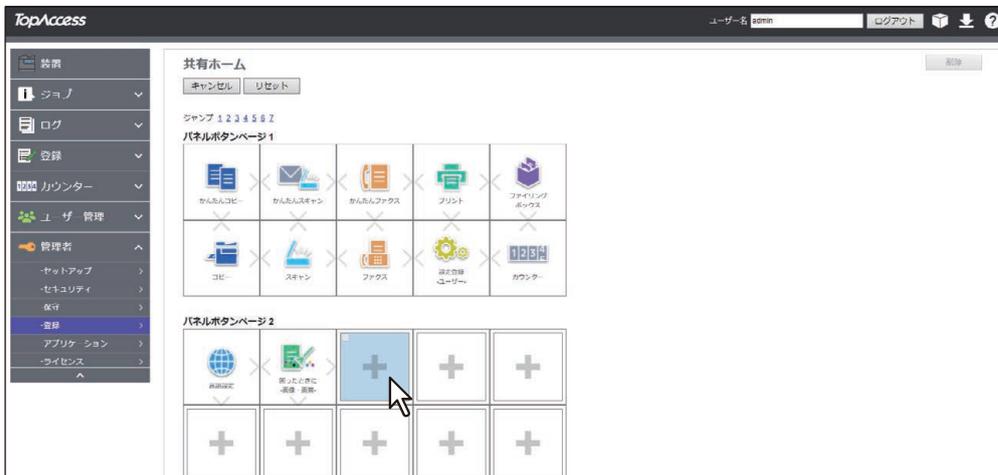
注意

TopAccessの [登録] メニューにアクセスするには、管理者権限でログインする必要があります。TopAccessの操作方法については、**TopAccessガイド/TopAccess**を参照してください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [登録] > [共有ホーム] をクリックします。



- 3 このアプリケーションを登録したいパネルボタン位置まで移動して、リンクをクリックします。[ジャンプ] の番号をクリックすると、その位置を含むリストへ直接移動します。



- 4 [ホームタイプ選択] 画面から [アプリケーションリストから登録] を選択します。



5 [アプリケーションリストから登録] 画面から [e-BRIDGE Plus for Zone OCR] を選択します。



6 [設定編集] 画面で [保存] をクリックします。
[キャンセル] をクリックすると、登録せずに [設定編集] 画面を閉じます。



■ パスコードを設定する

管理者がテンプレート用原稿をスキャンする際に必要なパスコードを設定します。

注意

パスコードの初期値は「0000」です。パスコードを初期値のまま使用しないで、管理者がパスコードを変更してください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] をクリックします。



3 [パスコード] の [設定] をクリックします。



4 [パスコード] にパスコードを入力します。

- 4文字以上8文字以下の数字を入力します。
- すでにパスコードが設定されている場合は、新しいパスコードに変更されます。



5 [保存] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、設定を破棄して [テンプレートリスト] 画面に戻ります。

■ 保存先のクラウドサービスを設定する

スキャンしたファイルをクラウドにアップロードして保存する場合に設定します。
保存先に指定するクラウドサービスを登録します。

1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。

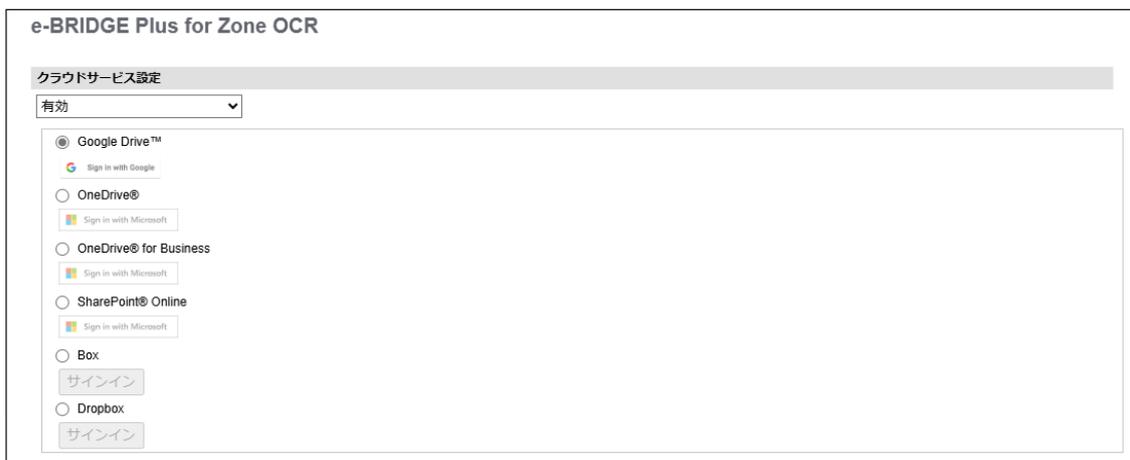
2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] をクリックします。



3 [クラウドサービス設定] で [有効] を選択します。

4 保存先に指定するクラウドサービスを選択します。

- Google Drive™
- OneDrive®
- OneDrive® for Business
- SharePoint® Online
- Box
- Dropbox



5 選択したクラウドサービスにサインインします。

[サインイン*] をクリックすると、選択したクラウドサービスのサインイン画面が表示されます。画面に従ってサインインしてください。

サインインが完了すると、サインインしたユーザー名が表示されます。

* [サインイン] のボタン名称は、クラウドサービスによって異なります。

補足

すでにクラウドサービスにサインインしている場合は、[サインアウト]が表示されます。

■ 通知画面の表示設定を変更する

アプリケーション起動時に、このアプリケーションのお試し期間の残り日数を通知する画面を表示するか設定できます。

注意

設定を変更するには、管理者権限でTopAccessにログインする必要があります。TopAccessの操作方法については、**TopAccessガイド/TopAccess**を参照してください。

補足

この設定項目は、本機でお試し期間残り日数の通知設定が有効の場合に表示されます。管理者にご相談いただくか、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] をクリックします。



- 3 必要に応じて、[お試し期間残り日数の通知表示] の設定を変更します。通知画面を非表示にする場合は、チェックボックスにチェックマークを付けます。

お試し期間残り日数の通知表示

お試し期間の通知を無効にする場合は、こちらを選択してください。

- 4 確認画面で [OK] をクリックします。

■ マーカーペンスキャンの設定を選択する

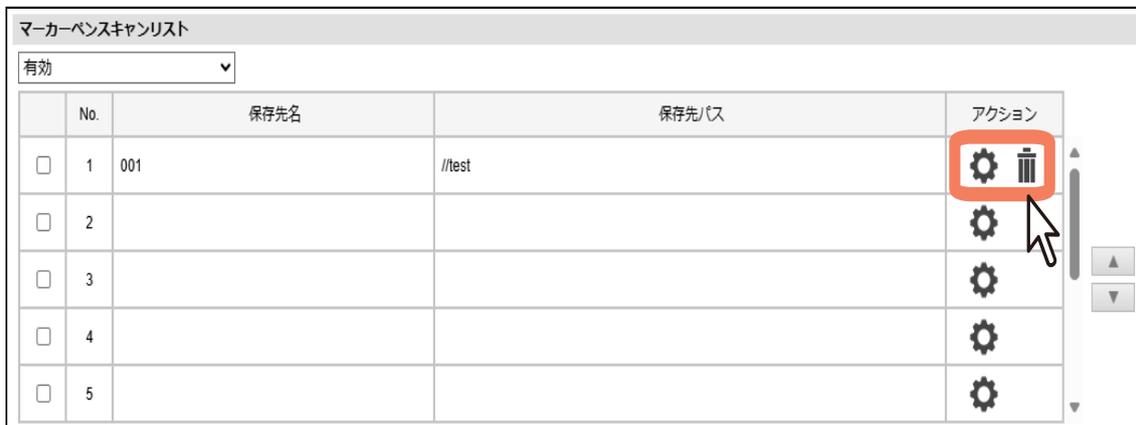
マーカーペンスキャン機能をユーザーが利用できるように有効にして、必要な設定を選択します。

- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] をクリックします。



- 3 マーカーペンスキャンリストを [有効] に設定します。
- 4 新規設定または設定変更したいマーカーペンスキャンリストの [アクション] 列にある ⚙️ (設定) をクリックします。

- 最大10のマーカーペンスキャン設定を登録できます。
- ⚙️ (設定) をクリックすると、マーカーペンスキャン設定を新規作成または変更できます。
- 🗑️ (削除) をクリックすると、マーカーペンスキャン設定を削除できます。確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして削除を実行するか、[キャンセル] をクリックして操作をやめます。



5 以下の機能を設定します。

- 保存先名
ユーザーがファイルの保存先を判別できるように、操作パネルに表示する保存先名（最大32文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です。
- 説明
保存先の情報をユーザーに伝えるために、保存先の説明（最大64文字）を入力できます。
- 保存先種別
ファイルの保存先を [SMB]、[クラウド] から選択します。
[SMB] を選択した場合と、[クラウド] を選択した場合とで、表示される入力項目が異なります。
- 保存先パス（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）
保存先の共有フォルダーを指定するネットワークパス（最大128文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です（SMBプロトコルでファイルを送信できる共有フォルダーを必ず指定します）。なお、次の文字は入力できません。
* ? " : < > |
- ログインユーザー名（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）
ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのログイン名（最大32文字）を入力します。なお、次の文字は入力できません。
" , ; ; < >
- パスワード（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）
ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのパスワード（最大32文字）を入力します。パスワードは伏せ字で表示されます。
- 保存先サイトパス（クラウドサービス設定でSharePoint Onlineを選択した場合のみ）
サイトのパス（最大128文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です。パスの先頭に"/"（スラッシュ）を必ず入力してください。なお、次の文字は入力できません。
\. : * ? " < > |

- 保存先クラウドパス（保存先種別でクラウドを選択した場合のみ）
保存先のフォルダーを指定するクラウドパス（最大128文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です。パスの先頭文字および、フォルダー名とフォルダー名の間には、“/”（スラッシュ）を必ず入力してください。なお、次の文字は入力できません。
\\.:*?"<>|
- 接続テスト
[実行] をクリックすると、指定した保存先に接続できるかテストできます。
- 認識結果の検証
矢印アイコンをクリックして [正規表現パターン] の入力欄を表示します。まず、原稿の左上から右下に順に検出する [領域] の番号*を設定し、それぞれに正規表現を128文字まで設定できます。
* e-STUDIO5015AC Series/ 5018A Series/7516AC Series/ 8518A Series：領域を1ページにつき3か所まで設定できます。
e-STUDIO5525AC Series/ 5528A Series以降：領域を1ページにつき5か所まで設定できます。
スキャン時に操作パネルで [認識結果の検証] を [ON] にすると、認識結果をこれら正規表現に照らし合わせて、検証結果をOCR結果ファイルに出力します。入力欄が空欄の場合は、当該領域の認識結果は検証されません。
☞ P.59 「認識結果の検証」
- OCR精度によるフォルダー分類
矢印アイコンをクリックして以下の設定を表示します。OCRの精度に応じて、ファイルを保存するサブフォルダーを切り替えることができます。
 - 結果を分類する
サブフォルダーをOCR精度に応じて切り替えるには、[有効] を選択します。分類しない場合は、[無効] を選択します。
 - サブフォルダー名
精度が高い場合：OCR精度が高いと判断されたファイルを保存するサブフォルダーの名前（最大64文字）（**HighAccuracy**）を入力します。次の文字は入力できません。¥/:*?"<>|
精度が低い場合：OCR精度が低いと判断されたファイルを保存するサブフォルダーの名前（最大64文字）（**LowAccuracy**）を入力します。次の文字は入力できません。¥/:*?"<>|
 - 分類条件
OCRの確度：OCRの確度で分類するにはチェックを付けます（**チェックあり**）。OCR機能が認識確度が低いと判定した領域が1つでもあると、[精度が低い場合] のサブフォルダーにファイルは保存されます。
正規表現による検証結果：正規表現の検証結果で分類するにはチェックを付けます（**チェックあり**）。正規表現に一致しない領域が1つでもあると、[精度が低い場合] のサブフォルダーにファイルは保存されます。
- 区切り文字の設定
OCR処理の対象の文字列に含まれる改行位置や、離れた文字の間に、指定した区切り文字を挿入できます。
 - 区切り文字を挿入する
区切り文字を挿入するには、[有効] を選択します。挿入しない場合は、[無効] を選択します。
 - 区切り文字
挿入する区切り文字（1文字）を入力します。

注意

マーカーペンを使って同じ縦位置で領域を指定しても、多少の位置の違いによって予期せぬ順番で領域が検出される場合があります。

補足

ファイルの詳細については、以下の参照先をご覧ください。

☞ P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

☞ P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

6 【保存】 をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、変更した設定を破棄して [マーカーペンスキャンリスト] 画面に戻ります。

■ テンプレート用原稿をスキャンする

ユーザーが簡単に操作できるように、管理者がテンプレートの元となる原稿を最大50個までスキャンして登録できます。スキャンが終了したら、以下の参照先へ進んでスキャンした原稿のファイルをテンプレートとして設定します。

📖 P.35 「テンプレートを設定する」

□ テンプレート用原稿のスキャン手順

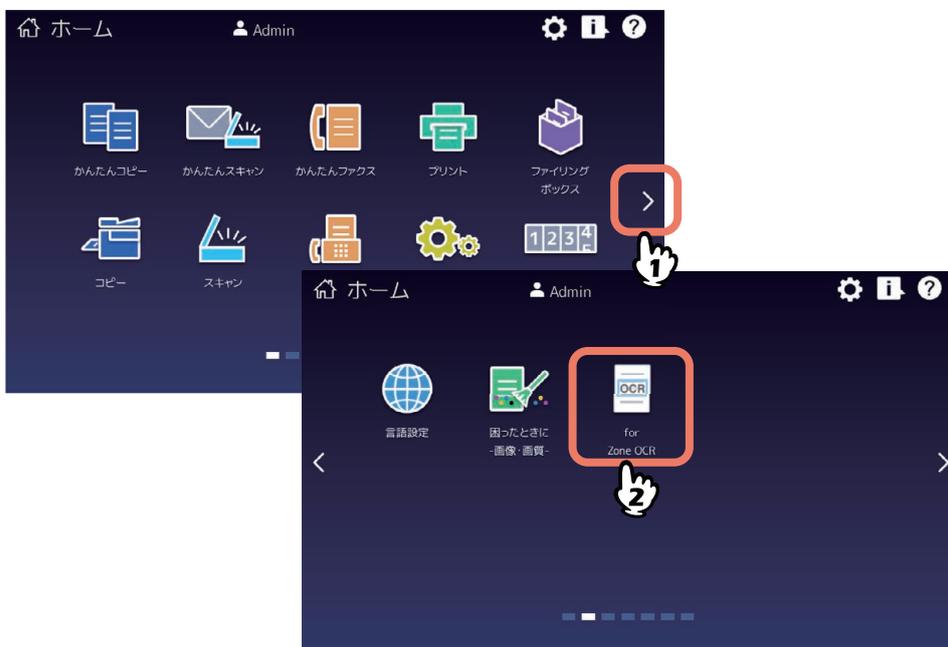
1 テンプレートとして登録したい原稿を原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットします。

補足

複数ページをセットしてスキャンしても、スキャンした最初の1ページだけがテンプレートとして登録されます。

2 操作パネルの ([ホーム] ボタン) を押します。

3 このアプリケーションのアイコンを探して押します。



4 [部門コード] または [ユーザー認証] 画面が表示される場合は、部門コードまたはユーザー名・パスワードを入力して [OK] を押します。

TopAccessやこのアプリケーションで認証を必要としない設定にされている場合は、認証画面は表示されません。そのまま次へ進みます。

注意

TopAccessやこのアプリケーションの認証設定によって、認証画面が表示されるタイミングが異なります。このアプリケーションの起動後、印刷やスキャンする際に認証を求められる場合があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。

5 画面右上の⚙️(管理者モード) を押します。



6 パスコードを入力して [OK] を押します。

- [パスコード] 入力欄を押すと、画面にキーボードが表示されますので、以下の参照先で設定したパスコードを入力します。
📖 P.23 「パスコードを設定する」
- [キャンセル] を押すと、前の画面に戻ります。



7 テンプレートリスト画面からアイコンを1つ選択します。

- テンプレート用原稿をはじめてスキャンする場合は、プレビュー画像のないテンプレート番号の付いたアイコンを選択します。
- 以前の原稿を新しい原稿または同じ原稿に差し替える場合は、すでに設定したプレビュー画像とテンプレート名のあるアイコンを選択します。
- [キャンセル] を押すと、管理者モードから抜けます。



注意

スキャンした原稿用のテンプレートをTopAccessから設定するために、番号または名前を覚えておいてください。

📖 P.35 「テンプレートを設定する」

- テンプレートの画像をスキャンしなおした場合、画像とスキャン設定が上書きされます。それ以外のテンプレート設定は必要に応じて変更してください。
- テンプレート用にスキャンして登録した原稿ファイルを削除するには、TopAccessから [テンプレートリスト] 画面を開いて、当該テンプレートの  (削除) をクリックします。
- 登録済みのテンプレートを選択した場合、新しい画像に上書きされます。以前のテンプレート設定が残っているので、再度設定が必要です。

8 画面右端の上下矢印アイコンを押して画面をスクロールしながら、スキャン設定を選択します。

テンプレート用原稿をスキャンする際の設定については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.33 「テンプレートのスキャン設定」

**9** [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押して、ページのスキャンを開始します。

[キャンセル] を押すと、スキャン操作を中止してテンプレートリスト画面へ戻ります。

10 スキャンが終了するまで待ちます。

スキャン中に [ストップ] を押すと、スキャン操作が中断されます。[スキャン中] 画面で、操作をキャンセルまたは再開できます。

- 原稿ガラスにテンプレート用原稿をセットした場合
 - 続けて複数ページを原稿ガラスでスキャンするには、手順11へ進みます。
 - 1ページだけスキャンして終了するには、手順13へ進みます。
- 自動原稿送り装置にテンプレート用原稿をセットした場合
 - スキャンが完了すると、自動的にプレビュー画面が表示されます。手順14へ進みます。

補足

自動原稿送り装置を使用中にスキャン操作を中止したい場合は、[ストップ] を押します。

11 次ページを原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットしたら、[スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押します。

[ジョブ削除] を押すと、スキャン操作を中止してジョブを削除できます。確認画面が表示されたら、[はい] を押してジョブ削除を実行してテンプレート選択画面に戻るか、[いいえ] を押して [スキャン中] 画面へ戻ります。

12 最後のページをスキャンし終わるまで、上記手順10と11を繰り返します。

13 スキャンが終了したら【読み込み終了】を押します。

【ジョブ削除】を押すと、確認メッセージが表示されます。【はい】を押してジョブ削除を実行してスキャン設定画面に戻るか、【いいえ】を押して【スキャン中】画面へ戻ります。

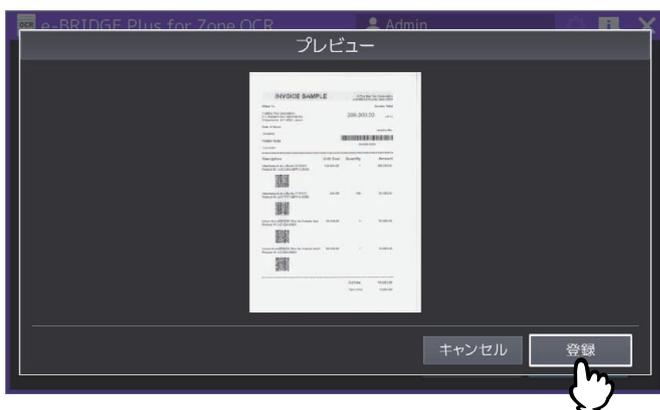


補足

テンプレート用の原稿をスキャンする場合、【スタート】を押して次ページ以降をスキャンしても、テンプレートとして登録されません。

14 プレビュー画像が表示されたら、【登録】を押します。

- 複数ページスキャンしても、先頭ページがテンプレート用に表示されます。
- 【キャンセル】を押すと、確認メッセージが表示されます。【はい】を押すと、スキャン操作を終了して、スキャン設定画面に戻ります。【いいえ】を押すと、【プレビュー】画面に戻ります。



15 【お知らせ】画面が表示されたら、メッセージを確認して【OK】を押します。

テンプレートリスト画面へ戻ります。

補足

必要に応じて、手順5へ戻って他のテンプレート用原稿をスキャンできます。

16 操作が終了したら、操作パネルの (【ホーム】ボタン) を押して操作画面から抜けます。

画面右上の【X】を押しても、このアプリケーションは終了します。

- テンプレートの設定が必要です。設定方法は以下の参照先をご覧ください。
 P.35 「テンプレートを設定する」

□ テンプレートのスキャン設定

テンプレート用原稿をスキャンする際、以下の設定を選択できます。画面をスクロールしながら、必要な設定を選択してください。

補足

- テンプレート用原稿をすでに登録している場合は、初期設定ではなく登録時の設定が呼び出されます。
- ここで選択したスキャン設定は、ユーザーがテンプレートを選択して原稿をスキャンする際に使用されません。



カラーモード

スキャンカラー（白黒、グレースケール、フルカラー）を選択します。

補足

テンプレートスキャンには、カラーまたはモノクロ印刷されたどちらの原稿も使用できます。

解像度

解像度（600dpi、400dpi、**300dpi**、200dpi）を選択します。

画像回転

回転角度を表すアイコン（回転なし、右90度、180度、左90度）を選択します。

補足

画像回転の初期設定は、お使いの機種により異なります。

原稿モード

原稿モード（文字、文字/写真）は [カラーモード] に依存します。

- [カラーモード] から [白黒] を選択している場合、この設定は [文字] に固定されます。
- [カラーモード] から [グレースケール] を選択している場合、この設定は変更しません。
- [カラーモード] から [フルカラー] を選択している場合、テキストのみの原稿をスキャンするには [文字] を、テキストと写真から成る原稿をスキャンするには [文字/写真] を選択できます。

画像ファイル形式

テンプレート用画像をスキャンする場合、この設定は [PDF - シングル] に固定されるため変更できません。

補足

テンプレートスキャンの [画像ファイル形式] は、このアプリケーションの [テンプレート設定] 画面で変更できます。

📖 P.35 「テンプレートを設定する」

原稿サイズ

[>] を押すと、[原稿サイズ] 画面が表示されます。以下の原稿サイズから1つ選択して、[OK] を押します。[キャンセル] を押すと、選択を中止します。

- [自動 (定形サイズ)] を選択すると、定形サイズの原稿をスキャンする際に自動的にサイズを検知します。
- [原稿サイズ自動検知] を選択すると、原稿をスキャンする際に自動的にサイズを検知します。また、[傾き補正] が設定できます。[ON] を押すと、原稿の傾きを検知して自動的に補正し、[OFF] を選択すると傾きを検知しません。
- [サイズ直接入力] を選択すると、原稿の [たて] (51 ~ 297 mm) と [よこ] (89 ~ 432 mm) のサイズをミリ単位で指定できます (入力欄を押すと、キーボードが表示されて数値を入力できます)。また、[傾き補正] が設定できます。[ON] を押すと、原稿の傾きを検知して自動的に補正し、[OFF] を選択すると傾きを検知しません。

注意

以下の設定では、セットしたサイズの原稿は自動両面原稿送り装置で給紙できません。原稿サイズと設定を変更してから、スキャン操作を再開してください。

- [原稿サイズ] が [原稿サイズ自動検知] に設定されている。
- [原稿サイズ] が [サイズ直接入力]、かつ [両面] が [両面 (左/右とじ)] または [両面 (上/下とじ)] に設定されている。
- [原稿サイズ] が [サイズ直接入力] で、指定されている [たて] と [よこ] サイズがA5またはST (ステートメント) より小さい。

両面

スキャンする面 (片面、両面 (左/右とじ)、両面 (上/下とじ)) を選択します。テンプレート用原稿の両面をスキャンしても、テンプレートとして設定できるのは最初にスキャンした面だけです。

白紙ページ除去

[ON] を選択すると、原稿に白紙ページが含まれている場合、スキャン結果から白紙ページを除きます。[OFF] を選択すると、白紙ページをスキャン結果に残します。

注意

- テンプレート用の画像をスキャンするときは、この設定は [OFF] になります。ユーザーがテンプレートを選択してスキャンを実行するときに設定値が反映されます。
- 白紙除去されたページに関する情報は出力されません。
- すべてのページで白紙が検知され、全ページ削除された場合は、ファイルは出力されません。

濃度

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、スキャン濃度を11段階 (左-5: より明るく、中央: 0、右+5: より濃く) に調整します。[自動] を押すと、スキャン時に濃度を自動的に調整します。初期設定は [カラーモード] によって異なります ([白黒] 選択時は [自動]、[グレースケール/フルカラー] 選択時は [0])。

下地調整

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、下地の明暗を9段階 (左-4: より明るく、中央: 0、右+4: より濃く) に調節します。

コントラスト

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、コントラストを9段階 (左-4: より弱く、中央: 0、右+4: より強く) に調節します。[カラーモード] を [フルカラー] に設定している場合に調整できます。

シャープネス

左 (-) アイコンまたは右 (+) アイコンを押して、シャープネスを9段階（左-4：よりぼかす、中央：0、右+4：より強調する）に調節します。

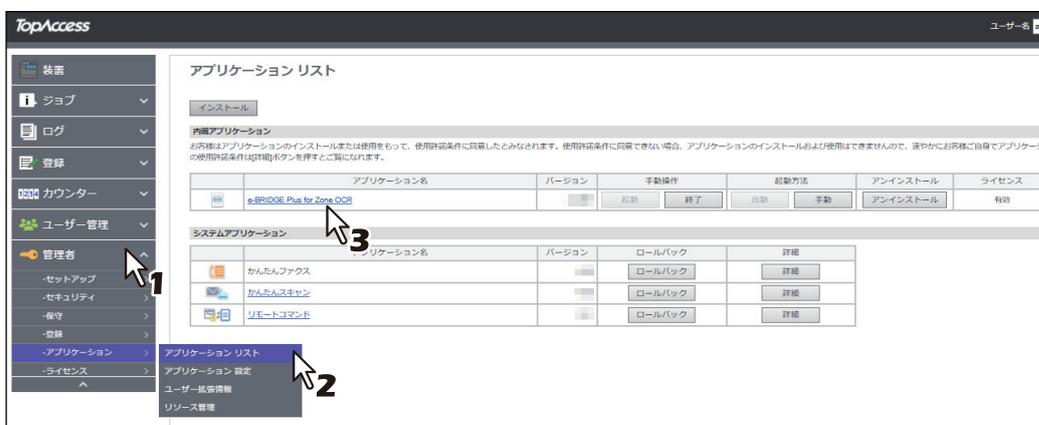
■ テンプレートを設定する

テンプレートを設定するには、あらかじめテンプレート用の原稿をスキャンする必要があります。テンプレート用原稿のスキャン手順は、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.29 「テンプレート用原稿をスキャンする」

□ テンプレートの設定手順

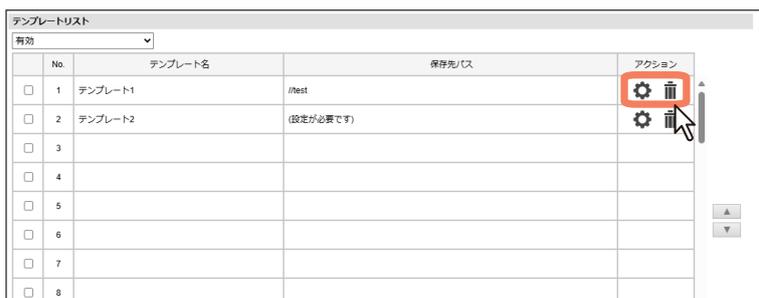
- 1 TopAccessを起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [アプリケーション] > [アプリケーションリスト] をクリックして [アプリケーションリスト] を開き、[e-BRIDGE Plus for Zone OCR] をクリックします。



- 3 新規設定または設定変更したいテンプレートの [アクション] 列にある ⚙️ (設定) をクリックします。

「(設定が必要です)」とメッセージが表示されるテンプレートは、必ず新規に設定してください。スキャンした原稿の画像が登録されているだけで、保存先のネットワークパスは設定されていません。テンプレート名と保存先パスが表示されるテンプレートはすでに設定されているので、設定内容を変更できます。

- 最大50のテンプレートを設定できます。
- ⚙️ (設定) をクリックすると、テンプレートを新規作成または変更できます。
- 🗑️ (削除) をクリックすると、スキャンして登録したテンプレート用原稿ファイルとテンプレート設定を削除できます。確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして削除を実行するか、[キャンセル] をクリックして操作をやめます。
- テンプレートを選択して ▲ (上向き矢印) または ▼ (下向き矢印) をクリックすると、[テンプレートリスト] と操作パネルでのジョブの掲載順序を変更できます。



注意

[テンプレートリスト] 画面を開いたままテンプレート用原稿をスキャンして登録すると、[テンプレートリスト] は更新されません。このリスト画面を閉じて、手順2でこのアプリケーションを開きなおしてください。

4 テンプレートに必要な以下の機能を設定します。

テンプレート名、保存先パスなどの機能を設定できます。詳細は、以下の参照先をご覧ください。

- 基本：[テンプレート名]、[概要] を設定します。
P.37 「基本」
- 領域設定：プレビュー上で領域を追加して、認識に必要な設定を選択します。
P.38 「領域設定」
- OCR設定：OCR機能の [言語]、[対象ページ]、[結果ファイル形式] を設定します。
P.41 「OCR設定」
- 保存先：保存先を設定して共有フォルダーまたはクラウドへの接続テストを行い、[画像ファイル形式] や [OCR精度によるフォルダー分類] を設定します。
P.42 「保存先」
- スキャン設定：[カラーモード]、[解像度]、[原稿モード] など、テンプレート用原稿をスキャンした際の設定を確認します。テンプレートスキャン機能で原稿をスキャンする際は、これらの設定が使用されます。
P.44 「スキャン設定」

[テンプレートリスト] をクリックすると、[テンプレートリスト] 画面へ戻ります。

e-BRIDGE Plus for Zone OCR

テンプレート設定
テンプレートリスト▶

保存 キャンセル

基本

テンプレート名

概要

領域設定

領域

追加 削除

No.	枠の色	領域名	領域種類	認識結果の利用
①	<input type="text" value=""/>	新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○	<input type="text" value=""/>	新規領域	バーコード	フォルダー・ファイル名に利用しない
○	<input type="text" value=""/>	新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○	<input type="text" value=""/>	新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○	<input type="text" value=""/>	新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない

テンプレート画像(幅 4938 ピクセル, 高さ 6992 ピクセル)



領域名

※XMLやCSVのフィールド名として利用します。

領域種類

テキスト
 バーコード
バーコード種別

黒塗りつぶし
 白塗りつぶし

認識結果の利用

フォルダ名にする
 ファイル名にする
 フォルダ・ファイル名に利用しない

▼認識結果の検証

正規表現パターン

※認識したテキストを正規表現により検証し、結果をファイルに出力します。

▼領域のサイズと位置

適用 リセット

サイズ

高さ ピクセル
幅 ピクセル

位置

横 ピクセル

※領域が小さすぎると、認識できない場合があります。
+ - 全体表示

5 設定が終了したら [保存] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、変更した設定を破棄して [テンプレートリスト] 画面に戻ります。

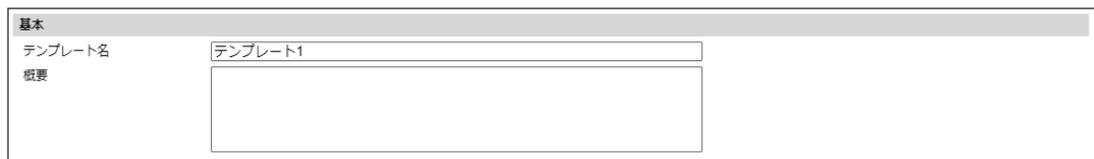
補足

設定が保存できなかった場合、エラーメッセージが表示されます。再度 [保存] をクリックしてください。

6 別のテンプレートを設定するには、上記手順3~5を繰り返します。

□ 基本

テンプレートの基本的な情報を入力します。



テンプレート名

操作パネルに表示するテンプレートの名前（最大32文字）を必ず入力します。

補足

ユーザーが操作パネルでテンプレートを選択する際に、使用方法が分かりやすい名前を付けてください。

概要

テンプレートの概要（最大1,024文字）を入力します。

補足

ユーザーはスキャン実行画面から開く [テンプレートプロパティ] 画面でこの概要を読むことができます。設定の詳細など、ユーザーに分かりやすい説明にしてください。

□ 領域設定

テンプレート用にスキャンした原稿にある文字またはバーコード領域をプレビュー上で追加して、その領域にある情報をどのように認識するかを設定します。設定できる領域の数はお使いの機種によって異なります*。プレビュー上でマウスホイールを動かすか、[+] または [-] をクリックするとプレビューを拡大・縮小することができます。[全体表示] をクリックすると、スキャンした原稿の全体表示に戻ります。

*e-STUDIO5015AC Series/ 5018A Series/7516AC Series/ 8518A Series：領域を1ページにつき3か所まで設定できます。

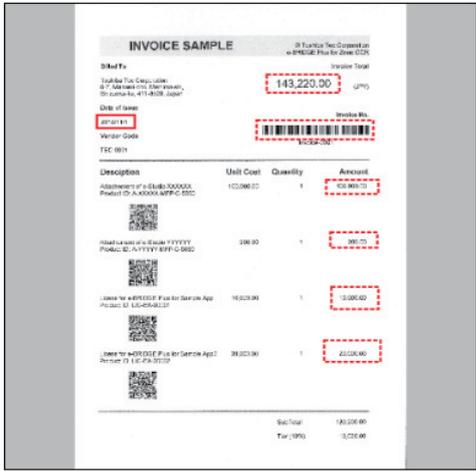
e-STUDIO5525AC Series/ 5528A Series以降：設定できる領域の数に制限はありません。

領域設定

領域

No.	枠の色	領域名	領域種類	認識結果の利用
①		新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○		新規領域	バーコード	フォルダー・ファイル名に利用しない
○		新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○		新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない
○		新規領域	テキスト	フォルダー・ファイル名に利用しない

テンプレート画像(幅 4938 ピクセル, 高さ 6992 ピクセル)



※領域が小さすぎると、認識できない場合があります。

領域名

※XMLやCSVのフィールド名として利用します。

領域種類

テキスト
 バーコード
バーコード種別

黒塗りつぶし
 白塗りつぶし

認識結果の利用

フォルダー名にする
 ファイル名にする
 フォルダー・ファイル名に利用しない

▼認識結果の検証

正規表現パターン

※認識したテキストを正規表現により検証し、結果をファイルに出力します。

▼領域のサイズと位置

サイズ

高さ ピクセル
幅 ピクセル

位置

横 ピクセル
縦 ピクセル

※始点は左上隅

複数ファイルに分割

一括スキャンしたデータを文書ごとに分割したい場合、各文書の先頭ページで、指定領域にバーコードを配置してください。
バーコード検出処理のため、全ページでOCRカウンターはカウントアップします。

分割バーコードの指定領域番号

アンカー

アンカーを設定する アンカーを基準にスキャン画像の位置を補正します。

注意

スキャンした画像のファイルサイズが大きいと、画像の拡大・縮小に時間がかかる場合があります。

追加、削除

[追加] をクリックすると、領域指定を促すメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、領域を示す仮枠がプレビュー上に表示されます。枠全体をドラッグして位置を変更したり、枠の四隅をドラッグして枠サイズを変更したりして、対象領域の上に枠を置きます。リストから領域を選択して [削除] をクリックすると、その領域が削除されます。

領域名

指定した領域の名前（最大40文字）を必ず入力してください。

領域種類

指定した領域を文字またはバーコードどちらで認識するかを選択します。

- [テキスト] を選択すると、その領域にある文字をOCR機能で読み取って認識します。
- [バーコード] を選択すると、その領域にあるバーコードを読み取って情報を認識します。[バーコード種別] からバーコードの種類 ([自動]、[1D]、[2D]、[Code 39]、[Code 93]、[Code 128]、[Codabar]、[IATA 2 of 5]、[Interleaved 2 of 5]、[Industrial 2 of 5]、[Matrix 2 of 5]、[UCC-128]、[UPC-A]、[UPC-E]、[Patch]、[Aztec]、[DataMatrix]、[MaxiCode]、[PDF417]、[QR Code]、[EAN-8]、[EAN-13]) を選択します。

補足

[自動] を選択すると、認識可能なバーコードの中から自動的に種類を識別して認識します。[1D] を選択すると、認識可能な1次元バーコードの中から自動的に種類を識別して認識します。[2D] を選択すると、認識可能な2次元バーコードの中から自動的に種類を識別して認識します。バーコードの種別があらかじめ分かっている場合は、その種別を選択することでよりはやく認識できます。

- [黒塗りつぶし] を選択すると、その領域を黒色でマスキングします。
お使いの機種により、この機能は設定できません。
- [白塗りつぶし] を選択すると、その領域を白色でマスキングします。
お使いの機種により、この機能は設定できません。

注意

[アンカーを設定する] が [有効] の場合、[黒塗りつぶし] と [白塗りつぶし] の機能は無視されます。

認識結果の利用

選択した領域にある文字またはバーコードを読み取り、その認識結果をどのように使用するかを選択します。

- [フォルダー名にする] を選択すると、認識結果と同じ名前のサブフォルダーを指定したフォルダー内に作成して、そのサブフォルダー内にスキャンした原稿のファイルを所定の名前で保存します。
- [ファイル名にする] を選択すると、認識結果と同じ名前をスキャンした原稿のファイルに付けて指定したフォルダーに保存します。
- [フォルダー・ファイル名に利用しない] を選択すると、認識結果をフォルダー名にもファイル名にも使用しません。

注意

- 異なる領域に同じ [フォルダー名にする] または [ファイル名にする] を設定できません。
- [領域種類] で [黒塗りつぶし] または [白塗りつぶし] を選択した場合、この設定は [フォルダー・ファイル名に利用しない] に固定されます。

補足

異なる領域に [フォルダー名] と [ファイル名] を別々に選択すると、保存先サブフォルダー名と保存するファイル名を設定できます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。

📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

認識結果の検証

矢印アイコンをクリックして [正規表現パターン] の入力欄を表示します。入力欄に正規表現として128文字まで入力できます。認識結果をこの正規表現に照らし合わせて、検証結果をOCR結果ファイルに出力します。入力欄が空欄の場合は、当該領域の認識結果は検証されません。

領域のサイズと位置

矢印アイコンをクリックして、指定領域の [サイズ] と [位置] をピクセル単位で表示します。入力欄に数値を入力して [適用] をクリックすると、領域を変更できます。[リセット] をクリックすると、以前の値に戻ります。

注意

領域を指定する際、以下のマージンとサイズにしてください。マージンや領域が小さいと、正しく文字やバーコードを認識できない場合があります。

- スキャンするテキストの領域を指定する場合は、対象領域内の文字の周囲に2 mm以上の余白をとることをお勧めします。
- 領域は、高さ（または幅）4 mm、幅（または高さ）10 mm以上のサイズが必要です。

領域の指定に問題がある場合（領域内に何も無いなど）は、エラーメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、正しい領域を指定してください。

複数ファイルに分割

読み込んだページの指定領域にバーコードがある場合、そのページを先頭ページとしてファイルを分割します。

例：領域番号 [3]、認識結果の利用 [ファイル名にする] として1~4ページを読み込んだ場合

No.	スキャンしたページ	説明
1		指定した領域にバーコードがあるので、バーコード読み取り結果をファイル名としてファイルを分割
2		指定した領域にバーコードがあるページとバーコードのない次ページを含めて、バーコード読み取り結果をファイル名としてファイルを分割
3		
4		指定した領域にバーコードがあるので、バーコード読み取り結果をファイル名としてファイルを分割

補足

- 領域番号に、小数、マイナス、0、スペース、全角文字が入力された状態で「保存」をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、正しい番号を入力してください。
- 領域番号にバーコード種別が入力された状態で「保存」をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、正しい番号を入力してください。

アンカー

[アンカーを設定する] を [有効] にすると、スキャンした画像の位置を補正する基準領域を設定できます。アンカーは赤い枠で表示されます。文字やバーコードのない白紙の領域は、アンカーとして設定できません。お使いの機種により、この機能は設定できません。

注意

アンカー使用時は、領域の囲み余白を1mm以上設定してください。

□ OCR設定

以下のOCR機能を設定します。

OCR設定	
言語	第1 <input type="text" value="日本語"/> 第2 <input type="text" value="英語"/>
対象ページ	<input checked="" type="radio"/> 全ページ <input type="radio"/> 先頭ページのみ
結果ファイル形式	<input type="text" value="XML"/>
▼ 区切り文字の設定	
改行位置や離れた文字の間に区切り文字を挿入できます。	
区切り文字を挿入する	<input type="text" value="無効"/>
区切り文字	<input type="text" value="/"/>

言語

OCR機能で使用する第1言語と第2言語（なし*、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、デンマーク語、フィンランド語、ノルウェー語、スウェーデン語、オランダ語、ポーランド語、ロシア語、日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、ポルトガル語（ブラジル）、ポルトガル語（ヨーロッパ）、トルコ語）を [第1] と [第2] メニューから選択します。本機で設定した言語が初期設定になります。

* [なし] はOCR第2言語で選択できます。

補足

[画像ファイル形式] から [PDF (OCR) - シングル] または [PDF (OCR) - マルチ] を選択した場合は、ここで選択した言語が文字認識に使用されます。

対象ページ

領域のある対象ページを選択します。

- [全ページ] を選択すると、同じ位置に領域が指定されているすべてのページをスキャンします。
- [先頭ページのみ] を選択すると、すべてのページをスキャンしますが、領域は先頭ページでのみスキャンします。

補足

領域設定で [ファイル分割] を有効にしている場合、この項目は設定できません。

結果ファイル形式

OCR認識結果を保存するファイルの形式 [XML] または [CSV] を選択します。ファイルを保存しない場合は、[出力しない] を選択します。

注意

[出力しない] を選択すると、e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用して認識結果を確認したり変更できません。

補足

OCR結果ファイルは、スキャンした原稿のファイルと同じフォルダーに同じ名前で保存されます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。

📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

📖 P.13 「OCR結果ファイル」

区切り文字の設定

指定した領域内の認識対象にある空白と改行に、以下のOCR処理を選択します。

- [無効] を選択すると、OCR認識結果の空白と改行を削除して、複数の認識結果をつなげて検出します。
- [有効] を選択すると、OCR認識結果の空白と改行を“/”（スラッシュ）に置き換えます。“/”（スラッシュ）を区切り文字として挿入し、複数の認識結果をつなげて検出します。

保存先

ファイルの保存先を設定します。

保存先

保存先種別 SMB クラウド

保存先パス //test

ログインユーザー名

パスワード

接続ポート 実行

画像ファイル形式 PDF - シングル

▼ OCR精度によるフォルダー分類

結果を分類する 無効

サブフォルダー名

精度が高い場合 HighAccuracy

精度が低い場合 LowAccuracy

分類条件

OCRの精度

正規表現による検証結果

保存先種別

ファイルの保存先を [SMB]、[クラウド] から選択します。

[SMB] を選択した場合と、[クラウド] を選択した場合とで、表示される入力項目が異なります。

保存先パス（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）

ファイルを保存する共有フォルダーを指定するネットワークパス（最大128文字）を必ず入力します（SMB プロトコルでファイルを送信できる共有フォルダーを必ず指定します）。なお、次の文字は入力できません。
* ? " : < > |

ログインユーザー名（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）

ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのログイン名（最大32文字）を入力します。なお、次の文字は入力できません。

", ; < >

パスワード（保存先種別でSMBを選択した場合のみ）

ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのパスワード（最大32文字）を入力します。パスワードは伏せ字で表示されます。

保存先サイトパス（クラウドサービス設定でSharePoint Onlineを選択した場合のみ）

サイトのパス（最大128文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です。パスの先頭に“/”（スラッシュ）を必ず入力してください。なお、次の文字は入力できません。
\\.:*?"<>|

保存先クラウドパス（保存先種別でクラウドを選択した場合のみ）

保存先の共有フォルダーを指定するクラウドパス（最大128文字）を入力します。この項目は必ず入力が必要です。パスの先頭文字および、フォルダー名とフォルダー名の間には、“/”（スラッシュ）を必ず入力してください。なお、次の文字は入力できません。
\\.:*?"<>|

接続テスト

[実行] をクリックすると、指定した保存先に接続できるかテストできます。

画像ファイル形式

スキャンした原稿の保存形式を選択します。

- [対象ページ] が [全ページ] の場合は、[出力しない]、[TIFF - シングル]、[PDF - シングル]、[PDF (OCR) - シングル] から選択します。
- [対象ページ] が [先頭ページのみ] の場合は、[出力しない]、[TIFF - マルチ]、[PDF - マルチ]、[PDF (OCR) - マルチ] から選択します。

補足

ファイルの詳細については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

OCR精度によるフォルダー分類

矢印アイコンをクリックして以下の設定を表示します。OCRの精度に応じて、ファイルを保存するサブフォルダーを切り替えることができます。

- 結果を分類する
サブフォルダーをOCR精度に応じて切り替えるには、[有効] を選択します。分類しない場合は、[無効] を選択します。
- サブフォルダー名
精度が高い場合：OCR精度が高いと判断されたファイルを保存するサブフォルダーの名前（最大64文字）（**HighAccuracy**）を付けます。次の文字は入力できません。¥/:*?"<>|
精度が低い場合：OCR精度が低いと判断されたファイルを保存するサブフォルダーの名前（最大64文字）（**LowAccuracy**）を付けます。次の文字は入力できません。¥/:*?"<>|
- 分類条件
OCRの確度：OCRの確度で分類するにはチェックを付けます（**チェックあり**）。OCR機能が認識確度が低いと判定した領域が1つでもあると、[精度が低い場合] のサブフォルダーにファイルは保存されます。
正規表現による検証結果：正規表現の検証結果で分類するにはチェックを付けます（**チェックあり**）。正規表現に一致しない領域が1つでもあると、[精度が低い場合] のサブフォルダーにファイルは保存されます。

補足

ファイルの詳細については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

□ スキャン設定

テンプレート用の原稿をスキャンした際の [カラーモード]、[解像度]、[原稿モード]、[画像回転]、[両面]、[原稿サイズ]、[白紙ページ除去]、[濃度]、[下地調整]、[コントラスト]、[シャープネス] の設定値を表示します。ここではテンプレートのスキャン設定を見るだけで変更できません。詳細については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.33 「テンプレートのスキャン設定」

スキャン設定	
カラーモード	白黒
解像度	300dpi
原稿モード	文字
画像回転	
両面	片面
原稿サイズ	自動(定形サイズ)
濃度	自動
下地調整	0
コントラスト	0
シャープネス	0

補足

テンプレートスキャン機能で原稿を実際にスキャンする際は、ここで確認できる設定が使用されます。

操作パネルから原稿をスキャンする

領域が指定されたテンプレートを操作パネルで選択して原稿をスキャンするだけで、指定領域の認識結果に応じてファイルを保存できます。また、領域をマーカーペンで指定して原稿をスキャンすることで、指定領域の認識結果に応じてファイルを保存することもできます。

- 📖 P.45 「テンプレートを使って原稿をスキャンする」
- 📖 P.48 「マーカーペンで領域を指定して原稿をスキャンする」

■ バーコードとスキャン動作について

- バーコードにスタート・ストップデジットが含まれていても、その情報は認識結果に含まれません。
- バーコードにチェックデジットが含まれていても、誤り検出はされません。チェックデジットが含まれた認識結果を出力します。
- 暗号化されたバーコードが読み込まれた場合は、認識に失敗します。

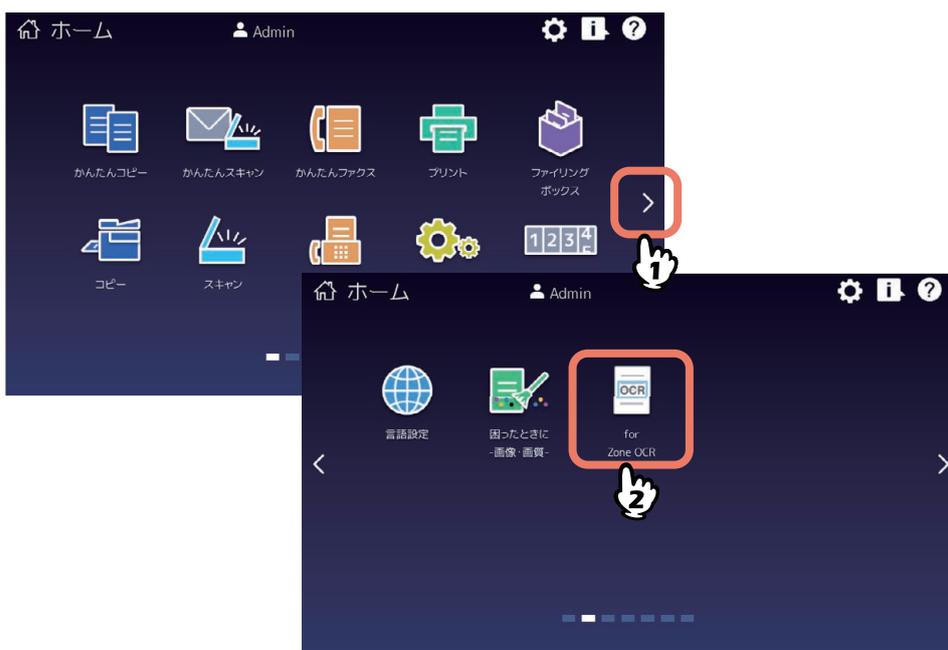
■ テンプレートを使って原稿をスキャンする

管理者が設定したテンプレートを選択して原稿を簡単にスキャンして保存できます。原稿をどのようにスキャンして保存するかは、テンプレートの設定によって決まります。どのテンプレートを選択するか分からない場合や、使用したいテンプレートがない場合は、管理者にご相談ください。

📖 P.35 「テンプレートを設定する」

1 操作パネルの  ([ホーム] ボタン) を押します。

2 このアプリケーションのアイコンを探して押します。



3 [部門コード] または [ユーザー認証] 画面が表示される場合は、部門コードまたはユーザー名・パスワードを入力して [OK] を押します。

TopAccessやこのアプリケーションで認証を必要としない設定にされている場合は、認証画面は表示されません。そのまま次へ進みます。

注意

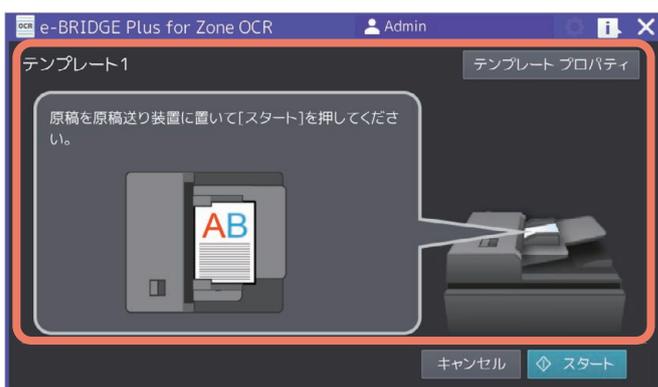
TopAccessやこのアプリケーションの認証設定によって、認証画面が表示されるタイミングが異なります。このアプリケーションの起動後、印刷やスキャンする際に認証を求められる場合があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。

4 使用したいテンプレートのアイコンを押します。



5 テンプレート名と原稿のセット方法を操作パネルの画面で確認して、原稿を原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットします。

- 選択したテンプレート用原稿をスキャンした際の給紙方法に合わせて、原稿のセット方法（メッセージとイメージ図）を表示します。セット方法を変更しても、以降の操作を続けられます。
- 原稿のセットのしかたについては、**用紙準備ガイド/用紙の準備**を参照してください。
- [テンプレートプロパティ] を押すと、テンプレートの概要を確認できます。確認後 [X] を押して画面を閉じます。



補足

バーコード上にテキストや画像、汚れなどがある場合は、認識の失敗、または誤認識の原因となります。

6 [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押します。

[キャンセル] を押すと、スキャン操作を中止してテンプレート選択画面へ戻ります。

7 スキャンが終了するまで待ちます。

スキャン中に [ストップ] を押すと、スキャン操作が中断されます。[スキャン中] 画面で、操作をキャンセルまたは再開できます。

- 原稿ガラスに原稿をセットした場合
 - 続けて複数ページを原稿ガラスでスキャンするには、手順8へ進みます。
 - 1ページだけスキャンして終了するには、手順10へ進みます。
- 自動原稿送り装置に原稿をセットした場合
 - 続けて別の原稿を自動原稿送り装置にセットしてスキャンする場合は、スキャン中に [継続] を押して手順8へ進みます。

補足

自動原稿送り装置を使用中にスキャン操作を中止したい場合は、[ストップ] を押します。

8 次ページを原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットしたら、[スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押します。

[ジョブ削除] を押すと、スキャン操作を中止してジョブを削除できます。確認画面が表示されたら、[はい] を押してジョブ削除を実行してテンプレート選択画面に戻るか、[いいえ] を押して [スキャン中] 画面へ戻ります。



9 最後のページをスキャンし終わるまで、上記手順7と8を繰り返します。

10 スキャンが終了したら [読み込み終了] を押します。

[ジョブ削除] を押すと、スキャン操作を中止してジョブを削除できます。確認画面が表示されたら、[はい] を押してジョブ削除を実行してテンプレート選択画面に戻るか、[いいえ] を押して [スキャン中] 画面へ戻ります。

11 [お知らせ] 画面のメッセージを読んでから [OK] を押します。

- 文字またはバーコードの認識処理が続きます。[お知らせ] 画面で [OK] を押すと、テンプレート選択画面へ戻ることができます。
 - 認識処理が終了すると、以下の設定と認識結果に応じてファイルが作成されます。
 - 認識結果の利用： P.39 「認識結果の利用」
 - 結果ファイル形式： P.41 「結果ファイル形式」
 - 画像ファイル形式： P.43 「画像ファイル形式」
 - OCR精度によるフォルダー分類： P.43 「OCR精度によるフォルダー分類」
- このアプリケーションが作成するフォルダーとファイルについては、以下の参照先をご覧ください。
- P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
 - P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
 - P.13 「OCR結果ファイル」

注意

エラーが発生すると、画面右上の  (状況確認) が点滅します。このアイコンを押すと、エラーメッセージを確認できます。エラー内容を確認したら、[OK] を押して [お知らせ] 画面を閉じます。未確認のまま24時間が経過すると、点滅は停止します。

12 必要に応じて手順4へ戻って別の原稿をスキャンするか、次の手順へ進んで作業を終了します。

13 操作が終了したら、操作パネルの ([ホーム] ボタン) を押して操作画面から抜けます。画面右上の [X] を押しても、このアプリケーションは終了します。

■ マーカーペンで領域を指定して原稿をスキャンする

原稿上の認識対象領域をマーカーペンで指定してから原稿をスキャンすると、その領域の認識結果に応じてファイルを指定したフォルダーに保存できます。原稿のスキャン方法やファイルの保存方法は、マーカーペンスキャンの設定に依存します。マーク方法、原稿のスキャン方法、ファイルの保存場所については、以下の参照先をご覧ください。管理者にお問い合わせください。

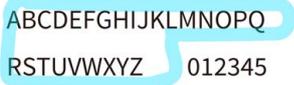
📖 P.26 「マーカーペンスキャンの設定を選択する」

□ マーカーペンスキャン用原稿の準備

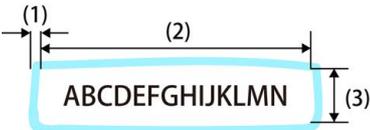
マーカーペンで領域を指定した原稿をあらかじめ準備してください。モノクロ原稿に、半透明のブルー、グリーン、イエロー、オレンジまたはピンク色のマーカーペンで領域を指定できます。

注意

- マーカーペンスキャンには、モノクロ原稿を使用してください。原稿にマーカーペンの色以外のカラー部分があると、領域として誤検知する場合があります。
- 新聞紙のような下地が濃い用紙に引かれたマーカーペンの色は検出できない場合があります。
- マーカーペンの色はスキャンした画像に残ります。
- マーカーペンで囲む場合
 - 文字が枠線からはみ出ないようにマーカーペンで囲んでください。枠線の外端より内側が領域として検知されます。

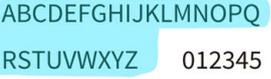
領域指定	検知領域
	ABCDEFGHIJKLMNOQ
	ABCDEFGHIJKLMNOQ RSTUVWXYZ

- 枠線は色がかすれないように必ずつなげてください。線が繋がっていないと、領域を正しく検知できない場合があります。
- 1～2 mm幅程度の線で囲んでください。線幅が太すぎると、塗り領域として検知される場合があります。幅（または高さ）12 mm以上、高さ（または幅）5 mm以上の囲み部分が必要です。

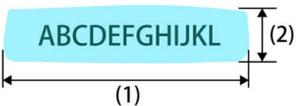
領域の寸法	必要寸法
	(1) 囲み線の幅：1～2 mm (2) 囲み枠の幅：12 mm以上 (3) 囲み枠の高さ：5 mm以上

• マーカーペンで塗る場合

- 文字にマーカーペンの色を塗ってください。マーカーペンで色を塗られた部分を含む仮想矩形の外端より内側が領域として検知されます。

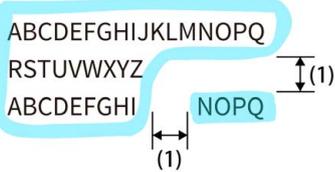
領域指定	検知領域
	<p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p>
	<p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p> <p>RSTUVWXYZ 012345</p>

- 幅（または高さ）10 mm以上、高さ（または幅）4 mm以上の塗り部分が必要です。

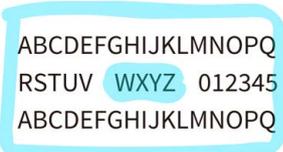
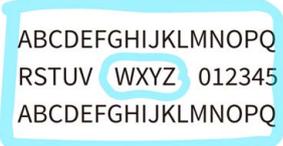
領域の寸法	必要寸法
	<p>(1) 塗り範囲の幅：10 mm以上</p> <p>(2) 塗り範囲の高さ：4 mm以上</p>

- マーカーペンで重ね塗りにより色が濃くなった場合、文字が認識できない場合があります。

- 隣接する領域は10 mm以上離してください。領域が10 mm以上離れていれば、異なる領域として検知されます。間隔が狭いと、1つの領域として検知される場合があります。

領域指定	検知領域
	<p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p> <p>RSTUVWXYZ</p> <p>ABCDEFGHI</p> <p>NOPQ</p>
<p>(1) 領域の間隔：10 mm以上</p>	<p>異なる領域として検知されます。</p>

- 内と外の複数領域を同時に指定した場合は、一番外側のマーキング範囲内が領域として検知され、内側のマーキングは無視されます。

領域指定	検知領域
	<p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p> <p>RSTUV WXYZ 012345</p> <p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p>
	<p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p> <p>RSTUV WXYZ 012345</p> <p>ABCDEFGHIJKLMNOPQ</p>

- 彩度の高い色をお使いください。
* メーカーによって色の彩度や濃さは異なります。

良い例	悪い例
彩度の高い色	彩度の低い色

- バーコードは、色が重ならないようにマーカーペンで囲んでください。バーコードを色で塗りつぶすと認識できません。

良い例	悪い例
バーコードのみが認識されます。	色の付いたバーコードは認識されません。

- 薄い文字は、OCR精度が著しく低下するか、検知できない場合があります。
- 画質の調整度合いによってはマーカーペンの色が検知できない場合があります。
- 原稿の左上、右上、左下、右下の順にスキャンします。マーカーペンの領域指定状態やスキャンした画像の状態により認識する順序が変わる場合があります。
- マーカーペンで領域指定を正しく行えていない場合は、領域を認識しないためe-BRIDGE Tool for Zone OCRで編集できません。
- 文字やバーコードのない白紙の領域をマーカーペンで囲んだり塗りつぶしたりしても領域として検知されません。

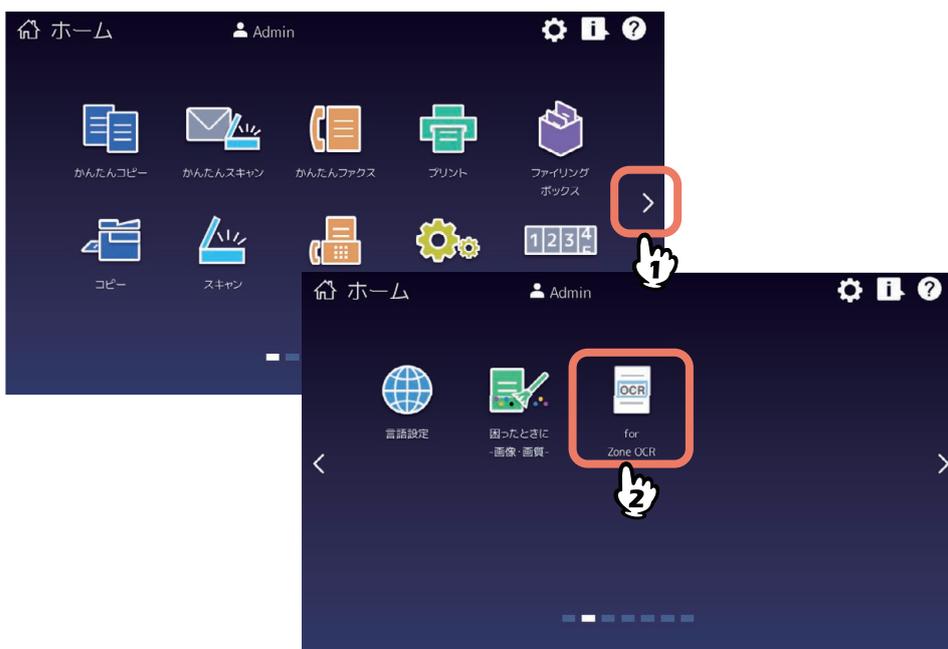
□ マーカーペンスキャンの手順

注意

マーカーペンスキャン機能をあらかじめセットアップする必要があります。以下の手順で操作できない場合は、管理者にご相談ください。

📖 P.26 「マーカーペンスキャンの設定を選択する」

- 1 操作パネルの  ([ホーム] ボタン) を押します。
- 2 このアプリケーションのアイコンを探して押します。



- 3 [部門コード] または [ユーザー認証] 画面が表示される場合は、部門コードまたはユーザー名・パスワードを入力して [OK] を押します。

TopAccessやこのアプリケーションで認証を必要としない設定にされている場合は、認証画面は表示されません。そのまま次へ進みます。

注意

TopAccessやこのアプリケーションの認証設定によって、認証画面が表示されるタイミングが異なります。このアプリケーションの起動後、印刷やスキャンする際に認証を求められる場合があります。詳しくは、管理者にお問い合わせください。

4 使用したいマーカーペンスキャンのアイコンを押します。

-  (混在) を押すと、領域内の文字とバーコードを認識します。お使いの機種により、この機能は選択できません。
- [テキストのみ] を押すと、領域内の文字をOCR機能で認識します。
- [バーコードのみ] を押すと、領域内のバーコードを読み取って情報を認識します。



注意

- バーコードはマーカーで塗りつぶすと認識精度が低下します。バーコードを指定するときは、マーカーペンで囲んでください。
-  (混在) 選択時に、テキストとバーコード両方を含む領域を指定する場合、マーカーペンで囲んでください。
- [マーカーペンスキャン (混在)] を実行すると、Zonal OCRカウンターでは領域の2倍の数でカウントされます。

5 スキャンしたファイルの保存先を選択します。

管理者が登録した保存先が1つの場合は、保存先選択画面は表示されません。そのまま次へ進みます。



6 画面右端の上下矢印アイコンを押して画面をスクロールしながらスキャン設定を選択します。文字またはバーコードのどちらをスキャンするかによって設定画面が異なります。設定については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.55 「マーカースキャンの設定」

【マーカースキャン（混在）】画面



【マーカースキャン（テキスト）】画面



【マーカースキャン（バーコード）】画面



7 原稿を原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットします。

- 原稿のセットのしかたについては、用紙準備ガイド/用紙の準備を参照してください。
- [使い方] を押すと、機能の使用法を確認できます。確認後、[閉じる] を押して画面を閉じます。

8 [スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押します。

[キャンセル] を押すと、スキャン操作を中止して、マーカースキャン（テンプレート）選択画面へ戻ります。

9 スキャンが終了するまで待ちます。

スキャン中に [ストップ] を押すと、スキャン操作が中断されます。[スキャン中] 画面で、操作をキャンセルまたは再開できます。

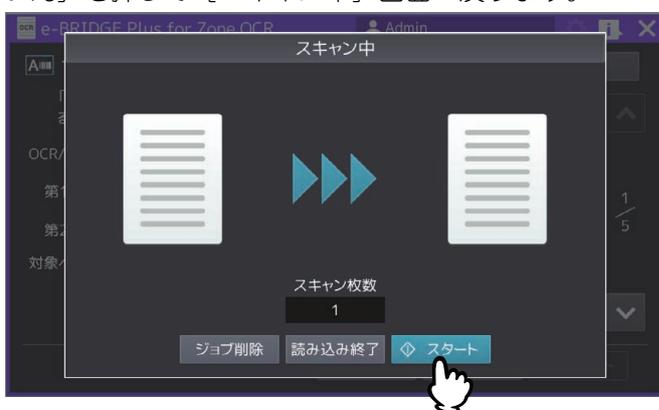
- 原稿ガラスに原稿をセットした場合
 - 続けて複数ページを原稿ガラスでスキャンするには、手順10へ進みます。
 - 1ページだけスキャンして終了するには、手順12へ進みます。
- 自動原稿送り装置に原稿をセットした場合
 - 続けて別の原稿を自動原稿送り装置にセットしてスキャンする場合は、スキャン中に [継続] を押して手順10へ進みます。

補足

自動原稿送り装置を使用中にスキャン操作を中止したい場合は、[ストップ] を押します。

10 次ページを原稿ガラスまたは自動原稿送り装置にセットしたら、[スタート]（または操作パネルの [スタート] ボタン）を押します。

[ジョブ削除] を押すと、スキャン操作を中止してジョブを削除できます。確認画面が表示されたら、[はい] を押してジョブ削除を実行してマーカーペンスキャン（テンプレート）選択画面に戻るか、[いいえ] を押して [スキャン中] 画面へ戻ります。



11 最後のページをスキャンし終わるまで、上記手順9と10を繰り返します。

12 スキャンが終了したら [読み込み終了] を押します。

[ジョブ削除] を押すと、スキャン操作を中止してジョブを削除できます。確認画面が表示されたら、[はい] を押してジョブ削除を実行してマーカーペンスキャン（テンプレート）選択画面に戻るか、[いいえ] を押して [スキャン中] 画面へ戻ります。

13 [お知らせ] 画面のメッセージを読んでから [OK] を押します。

- 文字またはバーコードの認識処理が続きます。[お知らせ] 画面で [OK] を押すと、マーカーペンスキャン（テンプレート）画面へ戻ることができます。
- 認識処理が終了すると、以下の設定と認識結果に応じてファイルが作成されます。
 - 認識結果の利用： P.56 「OCR認識結果」
 - 結果ファイル形式： P.57 「結果ファイル形式」
 - 画像ファイル形式： P.57 「画像ファイル形式」
 - OCR精度によるフォルダー分類： P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」

このアプリケーションが作成するフォルダーとファイルについては、以下の参照先をご覧ください。

- ☞ P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
- ☞ P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
- ☞ P.13 「OCR結果ファイル」

注意

エラーが発生すると、画面右上の  (状況確認) が点滅します。このアイコンを押すと、エラーメッセージを確認できます。エラー状態を確認したら、[OK] を押して [お知らせ] 画面を閉じます。未確認のまま24時間が経過すると、点滅は停止します。

- 14 必要に応じて手順4へ戻って別の原稿をスキャンするか、次の手順へ進んで作業を終了します。
- 15 操作が終了したら、操作パネルの  ([ホーム] ボタン) を押して操作画面から抜けます。画面右上の [X] を押しても、このアプリケーションは終了します。

□ マーカーペンスキャンの設定

マーカーペンをスキャンする場合、文字またはバーコードどちらを認識させるかによって設定画面が異なります。画面をスクロールしながら、必要な設定を選択してください。

補足

- 設定を変更してジョブを実行すると、次回画面を開いた際は変更した設定で表示します。
- [リセット] を押すと、初期設定に戻ります。

[マーカーペンスキャン (混在)] 画面



[マーカーペンスキャン (テキスト)] 画面



[マーカーペンスキャン (バーコード)] 画面



使い方

ガイド画面を表示します。操作方法を確認したら [閉じる] を押して画面を閉じます。

マルチクロップ

原稿ガラスで複数ページの原稿をスキャンする場合、1ページごとに別のファイルとして保存するには [ON] を選択します。

お使いの機種により、この機能は設定できません。

注意

この機能を有効にした場合は、原稿カバーを開けたままスキャンしてください。

OCR/バーコード言語

OCR機能で使用する第1言語と第2言語（なし*、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、デンマーク語、フィンランド語、ノルウェー語、スウェーデン語、オランダ語、ポーランド語、ロシア語、日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、ポルトガル語（ブラジル）、ポルトガル語（ヨーロッパ）、トルコ語）を選択します。[第1] または [第2] メニューの [>] を押して選択画面を表示し、言語を選択したら [OK] を押します。[キャンセル] を押すと、選択操作を中止します。本機で設定した言語が初期設定になります。

*[なし] はOCR第2言語で選択できます。

補足

[画像ファイル形式] から [PDF (OCR) - シングル] または [PDF (OCR) - マルチ] を選択した場合は、ここで選択した言語が文字認識に使用されます。

対象ページ

マークした領域のある対象ページを選択します。

- [全ページ] を選択すると、同じ位置に領域が指定されているすべてのページをスキャンします。
- [先頭ページのみ] を選択すると、すべてのページをスキャンしますが、領域は先頭ページでのみスキャンします。

OCR認識結果

文字またはバーコードを読み取り、その認識結果をどのように使用するかを選択します。文字を認識する場合は [塗りつぶし] と [囲み] を選択できます。バーコードを認識する場合は、[囲み] を選択できます。

- [利用しない] を選択すると、認識結果をフォルダー名にもファイル名にも利用しません。
- [フォルダー名] を選択すると、認識結果と同じ名前のサブフォルダーを指定したフォルダー内に作成して、そのサブフォルダー内にスキャンした原稿のファイルを所定の名前で保存します。
- [ファイル名] を選択すると、認識結果と同じ名前をスキャンした原稿のファイルに付けて指定したフォルダーに保存します。

注意

[塗りつぶし] と [囲み] から同じ [フォルダー名] または [ファイル名] を選択できません。

補足

[塗りつぶし] と [囲み] から [フォルダー名] と [ファイル名] を別々に選択すると、保存先サブフォルダー名と保存するファイル名を設定できます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。

📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」

📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

結果ファイル形式

OCR認識結果を保存するファイルの形式 [XML] または [CSV] を選択します。ファイルを保存しない場合は、[出力しない] を選択します。

注意

[出力しない] を選択すると、e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用して認識結果を確認したり変更できません。

補足

OCR結果ファイルは、スキャンした原稿のファイルと同じフォルダーに同じ名前で保存されます。詳しくは以下の参照先をご覧ください。

- 📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
- 📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」
- 📖 P.13 「OCR結果ファイル」

カラーモード

マーカープンスキャンの場合、この設定は [フルカラー] に固定されるため変更できません。

解像度

解像度 (600dpi、400dpi、**300dpi**、200dpi) を選択します。

画像回転

回転角度を表すアイコン (回転なし、右90度、180度、左90度) を選択します。

補足

画像回転の初期設定は、お使いの機種により異なります。

原稿モード

原稿モードを選択します。

- テキストのみの原稿をスキャンするには [文字] を選択します。
- テキストと写真から成る原稿をスキャンするには [文字/写真] を選択します。

画像ファイル形式

スキャンした原稿を保存するファイル形式を選択します。

- [対象ページ] が [全ページ] の場合は、[出力しない]、[TIFF - シングル]、[PDF - シングル]、[PDF (OCR) - シングル] から選択します。
- [対象ページ] が [先頭ページのみ] の場合は、[出力しない]、[TIFF - マルチ]、[PDF - マルチ]、[PDF (OCR) - マルチ] から選択します。

補足

ファイルの詳細については、以下の参照先をご覧ください。

- 📖 P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」
- 📖 P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」

原稿サイズ

[>] を押すと、[原稿サイズ] 画面が表示されます。以下の原稿サイズから1つ選択して、[OK] を押します。[キャンセル] を押すと、選択操作を中止します。

- [自動 (定形サイズ)] を選択すると、お使いの機種によっては、原稿ガラスでスキャンする場合の原稿サイズが表示されます。原稿サイズについては、**用紙準備ガイド/用紙の準備**を参照ください。
- [原稿サイズ自動検知] を選択すると、原稿をスキャンする際に自動的にサイズを検知します。また、[傾き補正] が設定できます。[ON] を押すと、原稿の傾きを検知して自動的に補正し、[OFF] を選択すると傾きを検知しません。
- [サイズ直接入力] を選択すると、原稿の [たて] と [よこ] のサイズをミリ単位で指定できます (入力欄を押すと、キーボードが表示されて数値を入力できます)。
原稿の [たて] (51 ~ 297 mm) ・ [よこ] (89 ~ 432 mm)
また、[傾き補正] が設定できます。[ON] を押すと、原稿の傾きを検知して自動的に補正し、[OFF] を選択すると傾きを検知しません。

注意

以下の設定では、セットしたサイズの原稿は自動両面原稿送り装置で給紙できません。原稿サイズと設定を変更してから、スキャン操作を再開してください。

- [原稿サイズ] が [原稿サイズ自動検知] に設定されている。
- [原稿サイズ] が [サイズ直接入力]、かつ [両面] が [両面 (左/右とじ)] または [両面 (上/下とじ)] に設定されている。
- [原稿サイズ] が [サイズ直接入力] で、指定されている [たて] と [よこ] サイズがA5またはST (ステートメント) より小さい。

両面

マーカーペンスキャンの場合、この設定は [片面] に固定されるため変更できません。

白紙ページ除去

[ON] を選択すると、原稿に白紙ページが含まれている場合、スキャン結果から白紙ページを除きます。[OFF] を選択すると、白紙ページをスキャン結果に残します。

注意

- 白紙除去されたページに関する情報は出力されません。
- すべてのページで白紙が検知され、全ページ削除された場合は、ファイルは出力されません。
- [マルチクロップ] が [ON] に設定されている場合、この機能は無視されます。
- お使いの機種により、この設定は [OFF] に固定されるため変更できません。

濃度

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、スキャン濃度を11段階 (左-5: より明るく、中央: 0、右+5: より濃く) に調整します。[自動] を押すと、スキャン時に濃度を自動的に調整します。初期設定は [0] です。

下地調整

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、下地の明暗を9段階 (左-4: より明るく、中央: 0、右+4: より濃く) に調節します。

コントラスト

左 (明) アイコンまたは右 (暗) アイコンを押して、コントラストを9段階 (左-4: より弱く、中央: 0、右+4: より強く) に調節します。

シャープネス

左 (-) アイコンまたは右 (+) アイコンを押して、シャープネスを9段階（左-4：よりぼかす、中央：0、右+4：より強調する）に調節します。

認識結果の検証

このアプリケーションの [マーカープンスキャン設定] - [認識結果の検証] で [正規表現パターン]（領域1～5）を設定している場合は、認識した文字列をその正規表現に照らし合わせて検証するかどうかを選択できます。検証する場合は [ON] を選択し、検証しない場合は [OFF] を選択します。

☞ P.26 「マーカープンスキャンの設定を選択する」

■ マルチクロップモードでスキャンする

マルチクロップ機能のみを使用する際に、マルチクロップモードでスキャンすることにより、マーカープンスキャンより少ない手順で実行できます。

マルチクロップモードでこのアプリケーションを起動するには、操作パネルのホーム画面にマルチクロップのアプリボタンを登録する必要があります。

お使いの機種により、この機能は設定できません。

□ 操作パネルのホーム画面にマルチクロップのアプリボタンを登録する

ユーザーが本機の操作パネルからマルチクロップモードの起動ができるように、操作パネルまたは TopAccess からこのアプリケーションを登録します。本書では、TopAccess からの登録方法を説明します。詳しくは、**TopAccessガイド/TopAccess** または **かんたん操作ガイド/基本操作** を参照してください。

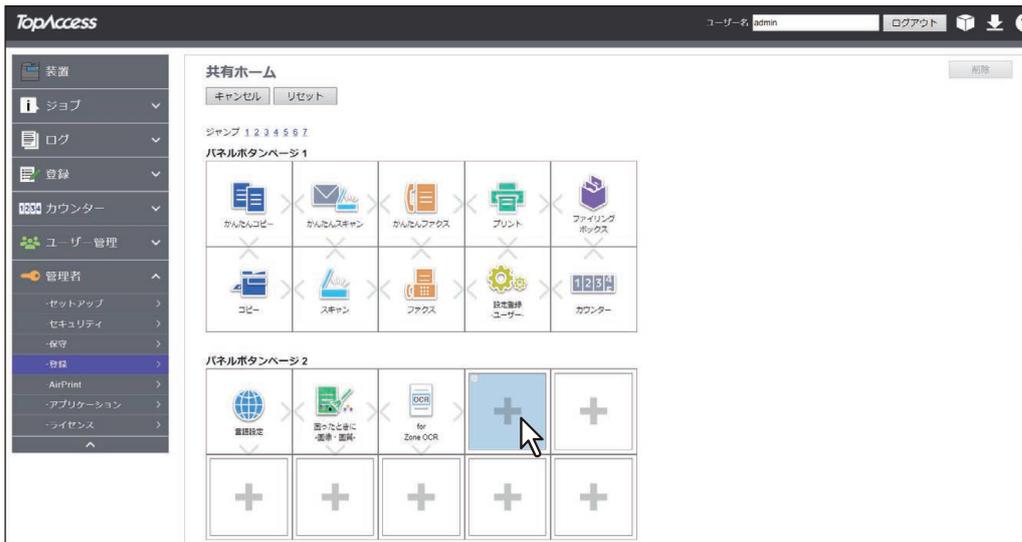
注意

TopAccess の [登録] メニューにアクセスするには、管理者権限でログインする必要があります。TopAccess の操作方法については、**TopAccessガイド/TopAccess** を参照してください。

- 1 TopAccess を起動して、管理者としてログインします。
- 2 [管理者] > [登録] > [共有ホーム] をクリックします。



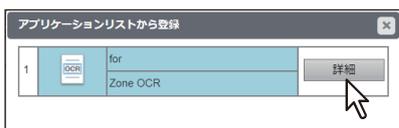
- 3 アプリボタンを登録したいパネルボタン位置まで移動して、リンクをクリックします。
[ジャンプ] の番号をクリックすると、その位置を含むリストへ直接移動します。



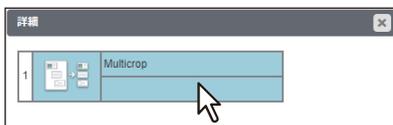
- 4 [ホームタイプ選択] 画面から [アプリケーションリストから登録] を選択します。



- 5 [アプリケーションリストから登録] 画面から [e-BRIDGE Plus for Zone OCR] の [詳細] を選択します。



- 6 [詳細] 画面から [Multicrop] を選択します。



- 7 [設定編集] 画面で [保存] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、登録せずに [設定編集] 画面を閉じます。



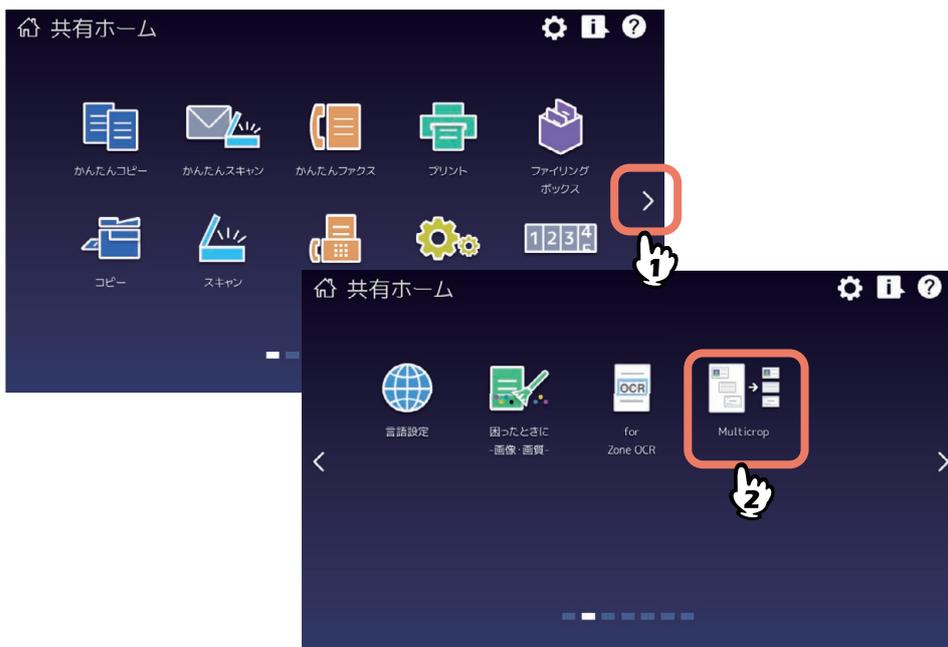
□ マルチクロップモードのスキャン手順

注意

マーカープンスキャン機能をあらかじめセットアップする必要があります。以下の手順で操作できない場合は、管理者にご相談ください。

📖 P.26 「マーカープンスキャンの設定を選択する」

- 1 操作パネルの  ([ホーム] ボタン) を押します。
- 2 マルチクロップのアプリボタンを押します。



- 3 スキャンしたファイルの保存先を選択します。

管理者が登録した保存先が1つの場合は、保存先選択画面は表示されません。そのまま次へ進みます。
[キャンセル] を押すと、アプリケーションを終了します。



- 4 画面右端の上下矢印アイコンを押して画面をスクロールしながらスキャン設定を選択します。

設定については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.55 「マーカープンスキャンの設定」

注意

マルチクロップモードでは、以下の項目は変更できません。

- 結果ファイル形式 ([出力しない] で固定されます)
- マルチクロップ ([ON] で固定されます)

5 原稿を原稿ガラスにセットします。

- 原稿のセットのしかたについては、**用紙準備ガイド/用紙の準備**を参照してください。
- [使い方] を押すと、機能の使用法を確認できます。確認後、[閉じる] を押して画面を閉じます。

注意

- 原稿どうしが重ならないように原稿ガラスに配置してください。
- スキャン時は原稿カバーを開けたままにしてください。このとき原稿ガラスに蛍光灯などの光が映りこむ場合は、原稿ガラスの全面を黒色の紙で覆ってください。

6 [スタート] (または操作パネルの [スタート] ボタン) を押します。

[キャンセル] を押すと、アプリケーションを終了します。

7 スキャンが終了するまで待ちます。

スキャン中に [ストップ] を押すと、スキャン操作が中断されます。[スキャン中] 画面で、操作をキャンセルまたは再開できます。

8 スキャンが終了したら [読み込み終了] を押します。

[ジョブ削除] を押すと、実行中のジョブを削除し、スキャン開始画面へ戻ります。



9 [お知らせ] 画面のメッセージを読んでから [OK] を押します。

- [お知らせ] 画面で [OK] を押すと、スキャン開始画面に戻ります。
- 認識処理が終了すると、以下の設定と認識結果に応じてファイルが作成されます。
 - 認識結果の利用： [P.56 「OCR認識結果」](#)
 - 画像ファイル形式： [P.57 「画像ファイル形式」](#)
 - OCR精度によるフォルダー分類： [P.28 「OCR精度によるフォルダー分類」](#)

このアプリケーションが作成するフォルダーとファイルについては、以下の参照先をご覧ください。

[P.9 「フォルダーやファイルの作成を決める設定」](#)

[P.11 「設定の組み合わせに応じたフォルダーやファイルの作成」](#)

注意

エラーが発生すると、画面右上の  (状況確認) が点滅します。このアイコンを押すと、エラーメッセージを確認できます。エラー状態を確認したら、[OK] を押して [お知らせ] 画面を閉じます。未確認のまま24時間が経過すると、点滅は停止します。

10 必要に応じて別の原稿をスキャンするか、次の手順へ進んで作業を終了します。

11 操作が終了したら、操作パネルの ([ホーム] ボタン) を押して操作画面から抜けます。

画面右上の [X] を押しても、このアプリケーションは終了します。

■ バーコード付文書や2次元コードの印刷設定

本機でバーコード付文書やQRコードなどの2次元コードを印刷する場合は、印刷するコンピューターから以下の印刷設定をご利用ください。

□ バーコード付文書を印刷する場合

- 1 [スタート] をクリックし、[設定] > [デバイス] > [デバイスとプリンター] を選択します。
プリンターフォルダーが表示されます。
- 2 本機のプリンタードライバーを右クリックし、表示されたメニューから [プリンターのプロパティ] を選択します。

補足

[ファイル] メニューが表示されていない場合は、[Alt] キーを押します。

- 3 [基本設定] をクリックします。
- 4 [画質] タブを選択し、[原稿種類] の [プロファイル名] から [ラインアート] を選択します。
- 5 [詳細設定] をクリックし、[基本] タブを選択します。
- 6 [黒を黒 (K) トナーで印刷する] および [グレーを黒 (K) トナーで印刷する] をチェックします。
- 7 [適用範囲] から [全体] に設定します。
- 8 [適用] または [OK] をクリックして、設定を保存します。

□ QRコードなどの2次元コードを印刷する場合

以下の印刷設定をご利用いただくとバーコードの認識率が向上する場合があります。

- 1 [スタート] をクリックし、[設定] > [デバイス] > [デバイスとプリンター] を選択します。
プリンターフォルダーが表示されます。
- 2 本機のプリンタードライバーを右クリックし、表示されたメニューから [プリンターのプロパティ] を選択します。

補足

[ファイル] メニューが表示されていない場合は、[Alt] キーを押します。

- 3 [基本設定] をクリックします。
- 4 [画質] タブを選択し、[詳細設定] をクリックします。
- 5 [画質調整] タブを選択し、[シャープネス] のチェックをオフにします。
- 6 [適用] または [OK] をクリックして、設定を保存します。

補足

Universal Printer 2 プリンタードライバーをご利用の場合：

[プリンターのプロパティ] > [デバイス設定] タブ> [カスタマイズ] > [プリンター言語設定] タブを選択します。

[プリンター言語] が [PCL6] の場合、[画像をJPEGに圧縮する] のチェックをオフにして、[適用] または [OK] をクリックして、設定を保存します。

e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使用する

原稿がかすれていたり汚れていたりすると、領域を正確にスキャンできない場合があります。OCR機能で正しく情報を認識できない場合は、誤った認識結果をXMLやCSVファイルに書き込みます。e-BRIDGE Tool for Zone OCRを使って、ファイルに書き込まれた認識結果を変更することができます。

補足

XMLやCSVファイルは直接開いて値を変更できますが、このツールを使うと領域を確認しながら値を変更できます。

編集判断の目安

領域の文字やバーコードの認識結果を確認するには、スキャンした画像ファイルをこのツールで開いてください。問題がありそうな認識結果欄が、以下の要素や列の値の組み合わせに応じて赤色の枠で強調されます。該当領域の認識結果を確認して、誤った結果を変更してください。

注意

赤枠は、ファイルをはじめて開く場合の編集判断の目安にしてください。編集して保存したファイルを再度開くと、赤枠はなくなります。

XMLファイル

要素とその値については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.13 「XMLファイル」

NeedToVerify	Suspicious	RegexMatch	認識結果欄
true	true	true	赤色の枠で強調
true	true	false	赤色の枠で強調
true	true	要素なし	赤色の枠で強調
true	false	true	赤色の枠で強調*
true	false	false	赤色の枠で強調
true	false	要素なし	赤色の枠で強調*
false	true	true	強調なし
false	true	false	強調なし*
false	true	要素なし	強調なし*
false	false	true	強調なし
false	false	false	強調なし
false	false	要素なし	強調なし
要素なし	true	true	赤色の枠で強調
要素なし	true	false	赤色の枠で強調
要素なし	true	要素なし	赤色の枠で強調
要素なし	false	true	強調なし
要素なし	false	false	赤色の枠で強調
要素なし	false	要素なし	強調なし

*このアプリケーションは、この値の組み合わせを出力することはありません。ファイルを開いて値を直接変更できますので、この表では可能な組み合わせとして掲載しています。

CSVファイル

列とその値については、以下の参照先をご覧ください。

📖 P.17 「CSVファイル」

NeedToVerify	Suspicious	RegexMatch	認識結果欄
true	true	true	赤色の枠で強調
true	true	false	赤色の枠で強調
true	true	空値	赤色の枠で強調
true	false	true	赤色の枠で強調*
true	false	false	赤色の枠で強調
true	false	空値	赤色の枠で強調*
false	true	true	強調なし
false	true	false	強調なし*
false	true	空値	強調なし*
false	false	true	強調なし
false	false	false	強調なし
false	false	空値	強調なし
列なし	true	true	赤色の枠で強調
列なし	true	false	赤色の枠で強調
列なし	true	空値	赤色の枠で強調
列なし	false	true	強調なし
列なし	false	false	赤色の枠で強調
列なし	false	空値	強調なし

*このアプリケーションは、この値の組み合わせを出力することはありません。ファイルを開いて値を直接変更できますので、この表では可能な組み合わせとして掲載しています。

■ このツールをインストールする

このツールは、Windowsが動作するコンピューターにインストールして使用できます。

注意

このツールは、イントラネット内での使用を目的としています。

□ 使用するためのシステム条件

このツールは以下のシステム条件で使用できます。

項目	説明
ハードウェア	<ul style="list-style-type: none">• CPU：Core i3以上• RAM：4 GB以上• HDD：20 GB以上の空き容量• ディスプレイ解像度：1,366 × 768ピクセル以上
サポートOS	Windows 11以降 64ビット
必須ソフトウェア	.NET Framework 4.6.2またはそれ以降
編集可能言語	このアプリケーションが対応するOCR言語に同じ

□ 圧縮ファイルの展開

このツールを使用するコンピューターの任意のフォルダーにこのツールの圧縮ファイルをコピーしてから、そのファイルを右クリックして [すべて展開] を選択して解凍してください（このツール専用のインストーラーはありません）。解凍されたフォルダー内の [eBToolForZoneOCR.exe] がこのツールです。

補足

このツールが不要になりましたら、このツールの圧縮ファイルと、解凍したフォルダー（このツールを含む）を削除してください。

□ 管理用ファイル

このツールの圧縮ファイルを解凍してツールを使用すると、以下の管理用ファイルが利用できます。

注意

このツールを解凍したフォルダーとその内部フォルダーには、ユーザーに書き込み権限が必要です。

設定ファイル

以下の場所に作成される「Settings.xml」ファイルで、このツールの設定を変更できます。

このツールを解凍したフォルダー ¥data¥Settings.xml

- **AdminEnterPass**：この項目を削除すると、ネットワークパスを指定する際に必要なパスワードを初期値に戻すことができます。
- **VerticalMargin**：プレビュー画像で領域を選択すると、その領域を拡大・縮小して表示します。この部分表示の縦方向マージンを設定します。0から100ピクセルの範囲で正数値を設定できます。正数値を指定しないと、初期値10ピクセルになります。
- **HorizontalMargin**：プレビュー画像で領域を選択すると、その領域を拡大・縮小して表示します。この部分表示の横方向マージンを設定します。0から100ピクセルの範囲で正数値を設定できます。正数値を指定しないと、初期値10ピクセルになります。

ログファイル

このツールの操作状況が、以下の場所に作成されるログファイルに記録されます。最大3MB、3ファイルが作成され、古いログファイルから順に削除されます。

このツールを解凍したフォルダー ¥data¥Logs

□ アップデート

ツールをアップデートする際は、新しいツールの圧縮ファイルを解凍し、解凍されたフォルダー内に、現在お使いの古いツールの\dataフォルダーをコピーします。

[eBToolForZoneOCR.exe] を起動して、設定データが引き継がれたことを確認したら、古いツールのフォルダーを削除してください。

補足

設定データの引き継ぎは、同じコンピューターでのみ行えます。

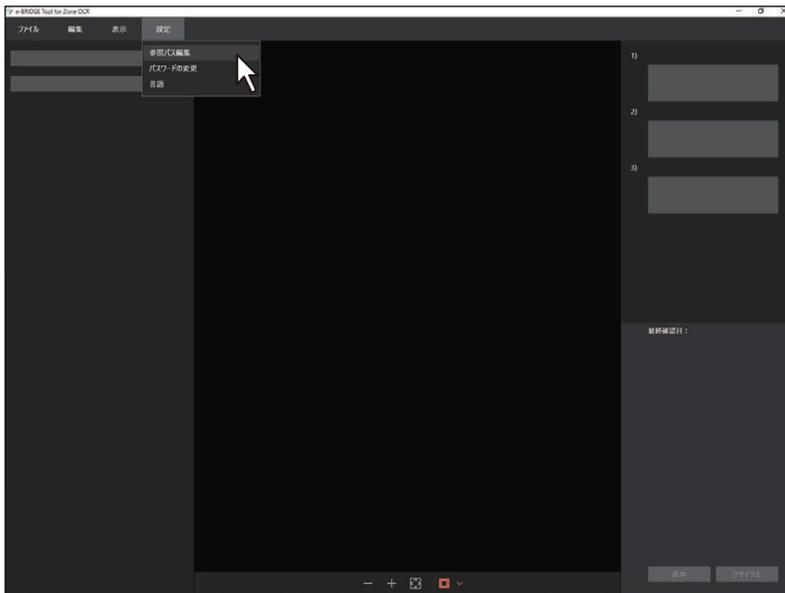
■ このツールでファイルの保存先を登録する

ファイルの編集を始める前に、編集したいファイルが保存されているフォルダーと編集したファイルを保存するフォルダーのネットワークパスを登録する必要があります。

1 [eBToolForZoneOCR.exe] をダブルクリックします。

- はじめてこのツールを起動するとソフトウェア使用許諾契約の画面が表示されます。契約内容をお読みいただき [同意する] をクリックすると、このツールは起動します。2回目以降の起動では、契約画面は表示されません。
- 読取先/保存先のネットワークパスが登録されていないと、確認メッセージが表示されます。[OK] をクリックしてメッセージを閉じ、必ず最初に登録してください。

2 [設定] メニューから [参照パス編集] を選択します。



補足

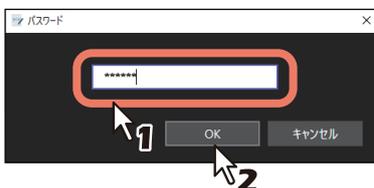
[設定] メニューから [言語] を選択すると、このツールの表示言語を選択できます。変更された言語設定は、このツールを終了したときに自動的に保存されます。

3 パスワードを入力して [OK] をクリックします。

はじめてこのツールを起動する場合は、パスワードの初期値「123456」を入力します。

補足

パスワードを忘れた場合は、管理者にご相談ください。

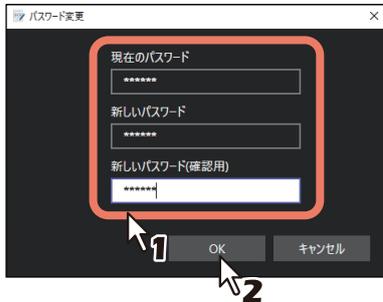


パスワードの変更

パスワード（6から8桁の英数字のみ、大文字小文字の区別あり）を変更するには、[設定] メニューから [パスワードの変更] を選択してください。[現在のパスワード]、[新しいパスワード]、[新しいパスワード（確認用）] を入力して、[OK] をクリックします。

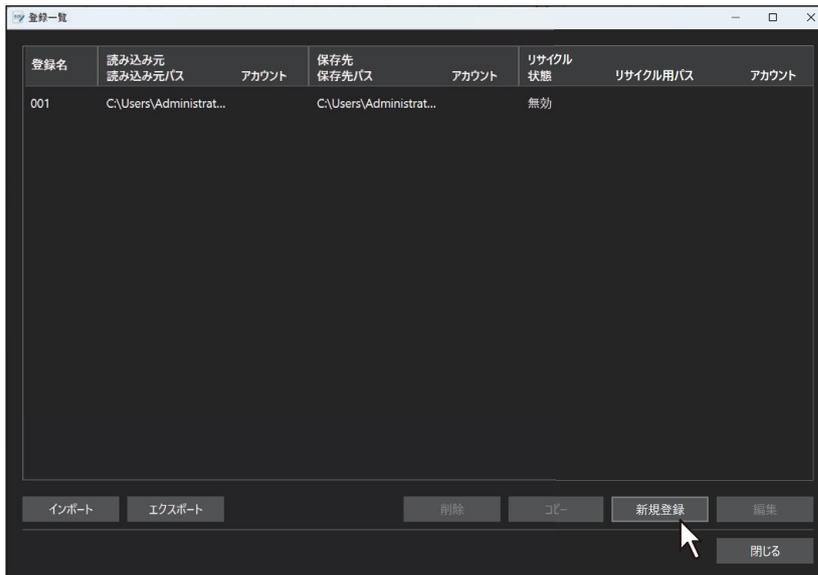
注意

パスワードを初期値のまま使用しないで、管理者がパスワードを変更してください。



4 [新規登録] をクリックします。

- [新規登録] をクリックすると、保存場所を60か所まで登録できます。
- すでに登録されている場所を選択して [編集] をクリックすると登録内容を変更できます。
- [登録名] を変更しても、新規登録はできません。変更した登録内容で上書き保存します。
- すでに登録されている場所を選択して [コピー] をクリックすると登録内容をコピーできます。
- すでに登録されている場所を選択して [削除] をクリックすると保存場所を削除できます。



補足

複数の保存先をリストに登録している場合は、任意の登録先を選択してドラッグすると掲載順序を変更できます。このリストでの掲載順序に合わせて、メイン画面に保存先が表示されます。

5 編集したいファイルの読み込み元と編集したファイルの保存先を入力して、[適用] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると登録を中止して、前の画面へ戻ります。

- 登録名
 - リストに表示する登録名（最大16文字）を入力します。以下の文字は入力できません。
& ' < > "
- 読み込み元
 - 編集したいファイルの読み込み元を指定します。このアプリケーションでファイルを保存したフォルダーを指定してください。
メイン画面の確認先選択ボックスで [未確認] と表示されます。
 - 読み込み元パス：ファイルが保存されているフォルダーのネットワークパス（最大128文字）を必ず入力します。[参照] をクリックすると、フォルダーを直接選択できます。以下の文字は入力できません。
* ? " < > |
 - アカウント：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのアカウント（最大32文字）を入力します。以下の文字は入力できません。
"/ [] : ; | = , + * ? < >
 - パスワード：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのパスワード（最大32文字）を入力します。入力時、パスワードはピュレット（・）で表示されます。
 - 接続テスト：[実行] をクリックすると、[読み込み元パス]、[アカウント]、[パスワード] で指定した読み込み元に接続できるかテストできます。

- 保存先
 - このツールで編集したファイルの保存先を指定します。
メイン画面の確認先選択ボックスで [確認済] と表示されます。
 - 保存先パス：編集したファイルを保存するフォルダーのネットワークパス（最大128文字）を必ず入力します。[参照] をクリックすると、フォルダーを直接選択できます。以下の文字は入力できません。
* ? " < > |
 - アカウント：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのアカウント（最大32文字）を入力します。以下の文字は入力できません。
"/ [] : ; | = , + * ? < >
 - パスワード：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのパスワード（最大32文字）を入力します。入力時、パスワードはピュレット（・）で表示されます。
 - 接続テスト：[実行] をクリックすると、[保存先パス]、[アカウント]、[パスワード] で指定した保存先に接続できるかテストできます。

- リサイクル

不要ファイルを保存しておく機能を [有効] にするかどうかを設定します。

[有効] にすると [登録一覧] 画面の [状態] に [有効] が表示され、メイン画面の [リサイクル] ボタンが有効になります。

メイン画面の確認先選択ボックスで [リサイクル] と表示されます。

- リサイクル用パス：不要ファイルを保存するフォルダーのネットワークパス（最大128文字）を必ず入力します。[参照] をクリックすると、フォルダーを直接選択できます。以下の文字は入力できません。

*?"<>|

- アカウント：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのアカウント（最大32文字）を入力します。以下の文字は入力できません。

"/[]:;|=,+*?<>

- パスワード：ユーザー認証が必要な場合は、共有フォルダーにアクセスできるユーザーのパスワード（最大32文字）を入力します。入力時、パスワードはピュレット（・）で表示されます。

- 接続テスト：[実行] をクリックすると、[リサイクル用パス]、[アカウント]、[パスワード] で指定した保存先に接続できるかテストできます。



注意

[読み込み元パス] と [保存先パス] または [リサイクル用パス] に、同じネットワークパスは設定できません。同じフォルダー内でファイルを管理したい場合は、[読み込み元パス] で指定したフォルダー内にサブフォルダーを作成してからそのサブフォルダーを [保存先パス] または [リサイクル用パス] で指定してください。

6 [登録一覧] 画面の [閉じる] をクリックします。

- 登録した設定が保存されます。
- ファイルを編集するには、以下の参照先へ進んでください。

📖 P.74 「このツールでOCR結果ファイルを編集する」

注意

登録したフォルダーにアクセスできない場合は、エラーメッセージが表示されます。[OK] を押してメッセージを閉じ、登録しなおしてください。

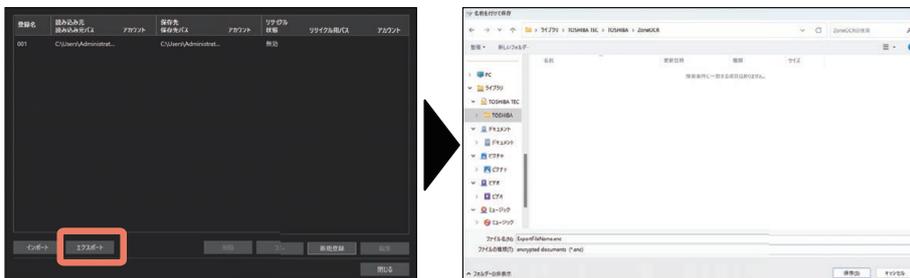
7 操作が終了したら、メイン画面の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

画面右上の [X] をクリックしても、このツールは終了します。

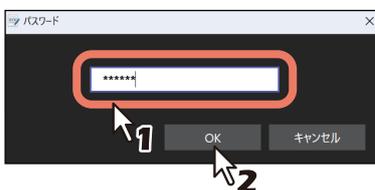
□ 保存先設定をエクスポートする

登録した登録名、読み込み元、保存先、リサイクルなどの保存先情報をエクスポートします。

- 1 [エクスポート] をクリックし、ファイルの保存場所とファイル名を指定します。
ファイルを保存するフォルダーに読み取り/書き込みのアクセス許可をしてください。



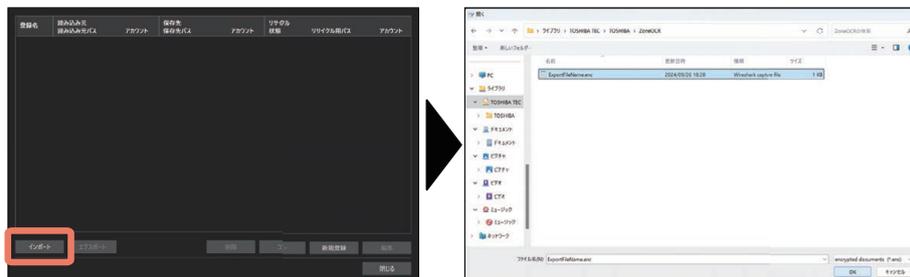
- 2 パスワードを入力して、[OK] をクリックします。
パスワードは半角英数字で、6字以上8字以下で設定してください。



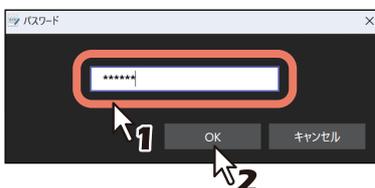
□ 保存先設定をインポートする

保存先情報をインポートします。

- 1 [インポート] をクリックし、エクスポートファイルを選択します。



- 2 エクスポート時に設定したパスワードを入力して、[OK] をクリックします。
パスワードは半角英数字で、6字以上8字以下で入力してください。



成功するとインポートした情報が「登録一覧」に表示されます。



■ このツールとクラウドサービスとを連携する

クラウドサービス各社が提供するクラウドストレージ同期用アプリケーション（本書では「Drive Tool」と称します）を使用して、Drive Toolと同期するドライブパスを読み込み元/保存先に指定することで、このツールでクラウドサービスに保存したファイルを編集したり、編集したファイルをクラウドサービスに保存したりできます。

注意

- このツールとクラウドサービスとを連携するには、お使いのクラウドサービスが提供する専用アプリケーションをインストールし、適切に設定する必要があります。インストール方法や設定の詳細については、サービス提供元の情報やヘルプを参照してください。
- クラウドサービスとの連携に失敗する場合は、ネットワーク環境やセキュリティ設定が適切に設定されているか管理者にご相談ください。

連携可能なクラウドサービス

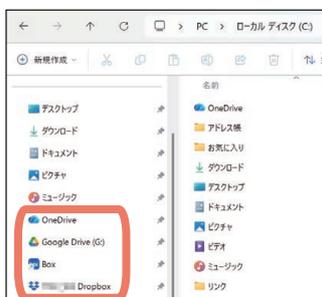
クラウドサービス	アプリケーション名 (Drive Tool)	ダウンロードURL
Google Drive	Google Drive for Desktop	https://www.google.com/intl/ja/drive/download/
OneDrive OneDrive for Business SharePoint Online*1	OneDriveアプリ*2	https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/onedrive/download
Box	Box Drive	https://www.box.com/ja-jp/resources/downloads
Dropbox	Dropbox デスクトップ アプリ	https://www.dropbox.com/ja/install

*1 SharePoint Online は、OneDriveにショートカットを作成することで連携できます。

*2 Windows 11以降にはあらかじめインストールされています。

1 連携したいクラウドサービスのDrive Toolをダウンロードし、セットアップを完了させます。

セットアップが完了すると、エクスプローラー上にDrive Toolが表示されます。



2 [eBToolForZoneOCR.exe] を起動して、ファイルの保存先（[読み込み元パス] / [保存先パス] / [リサイクル用パス]）としてDriveToolのパスを登録します。

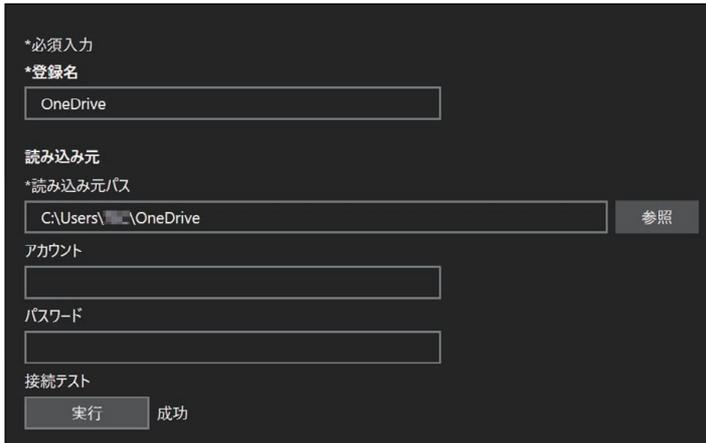
保存先パスの入力欄に、連携したいクラウドサービスのDriveToolがマウントされているパスを入力してください。

登録方法の手順について詳しくは、以下の参照先をご覧ください。

[P.67 「このツールでファイルの保存先を登録する」](#)

補 足

DriveToolのパスは、エクスプローラー上に表示されたDriveToolのプロパティから確認できます。



*必須入力
*登録名
OneDrive

読み込み元
*読み込み元パス
C:\Users\...\OneDrive 参照

アカウント
パスワード

接続テスト
実行 成功

■ このツールでOCR結果ファイルを編集する

このツールを使って認識結果を編集できます。

注意

このツールをインストールした複数のコンピューターから1つのファイルを同時に編集することはできません。

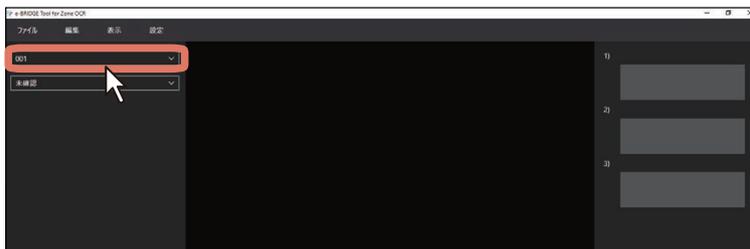
1 [eBToolForZoneOCR.exe] をダブルクリックします。

- はじめてこのツールを起動するとソフトウェア使用許諾契約の画面が表示されます。契約内容をお読みいただき「同意する」をクリックすると、このツールは起動します。2回目以降の起動では、契約画面は表示されません。
- 読取先/保存先のネットワークパスが登録されていないと、確認メッセージが表示されます。「OK」をクリックしてメッセージを閉じ、必ず最初に登録してください。
📖 P.67 「このツールでファイルの保存先を登録する」

2 メイン画面の登録名選択ボックスをクリックして、登録名を選択します。

以下の参照先で設定した登録名のリストが表示されます。編集したいファイルが保存されている保存先の登録名を選択します。

📖 P.67 「このツールでファイルの保存先を登録する」

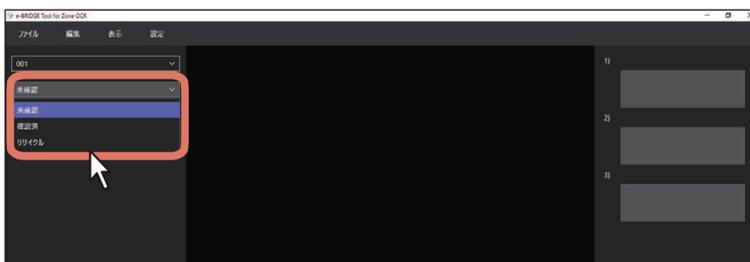


補足

- [設定] メニューから [言語] を選択すると、このツールの表示言語を選択できます。変更された言語設定は、このツールを終了したときに自動的に保存されます。
- [表示] メニューから [再読み込み] を選択すると、ファイルのツリー表示が最新の状態に更新されます。
- [確認済] を選択すると、保存したファイルを開いて編集結果を確認できます。

3 メイン画面の確認先選択ボックスをクリックして、編集したいファイルの保存先を選択します。

- [未確認] または [確認済] を選択すると、まだ確認していないファイルと確認が済んでいるファイルを分けて表示することができます。
- [リサイクル] を選択すると、[リサイクル用パス] に設定した保存先にあるファイルを表示することができます。



4 編集したいファイルをダブルクリックします。

- フォルダがある場合は、フォルダ名を表示します。フォルダをクリックして開くと、その中のファイルが表示されます。
- OCR結果ファイルのあるTIFFまたはPDFファイルだけが表示されます。その他のファイルは表示されません。



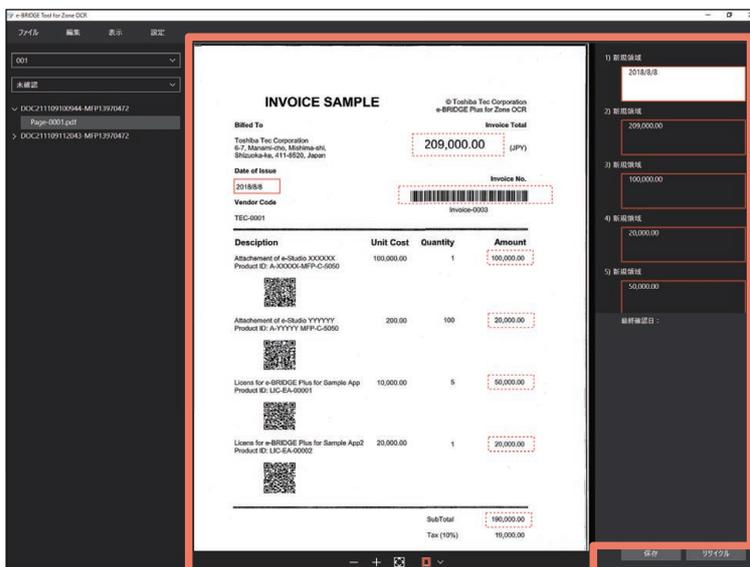
注意

[リサイクル] は、[登録情報] 画面の [リサイクル] を [有効] に設定した場合に表示します。

5 表示されたスキャン画像と領域を確認します。

別のファイルを編集したい場合は、手順2へ戻って対象ファイルを選択します。

- 赤色（初期設定色）の枠：選択中のOCR領域を表します。
- 赤色（初期設定色）破線の枠：OCR領域を表します。
- スクロールバー：スキャン画像をスクロールします。
- / ：スキャン画像を拡大/縮小します。
- ：OCR領域の枠の色を設定します。
- ：スキャン画像を全体表示します。

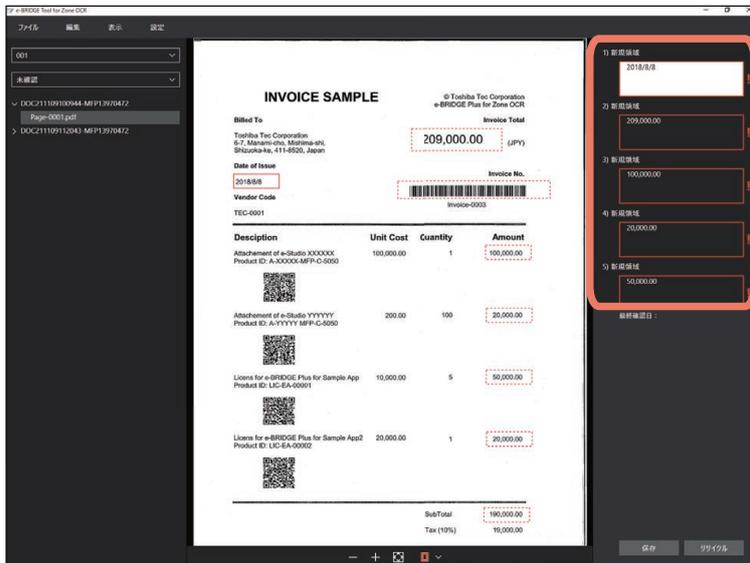


補足

- [表示] メニューの [枠の色] から枠の色を選択できます。
- 一度編集したファイルを再度開くと、その編集日時が画面右下にある [最終確認日] に表示されます。[表示] メニューの [日付の形式] から、日付の形式を選択できます。
- 正しく認識されていない可能性のある領域は、メイン画面右側にある当該領域欄が赤枠で囲われて“！”マークを表示します。

6 メイン画面右側にある領域名を確認して、変更したい領域欄に正しい文字を入力します。

- テンプレートスキャンの場合は、テンプレートで設定した領域名が表示されます。
- マーカーペンスキャンの場合は、塗りつぶし領域に「Highlight#」、囲み領域に「Box#」と表示されます。#は認識順序を表す1から3の番号です。
- 認識結果をフォルダー名にしている場合は、フォルダーアイコンが表示されます。認識結果をファイル名にしている場合は、ファイルアイコンが表示されます。
- OCR精度が低い場合や認識結果が指定の正規表現に合わない場合は、当該領域欄を赤枠で表示します。



注意

- 認識結果に空文字が入っている領域はツールによる編集が可能ですが、認識結果が存在しない領域欄はツールで編集して追加することはできません。
- フォルダー名やファイル名として使用できない文字が入力された状態で保存すると、フォルダー名やファイル名の当該部分はアンダースコア「_」に置き換えられます。
- 文字入力により保存されるファイルの名前が192バイトより長くなる場合、名前の末尾の超過部分は切り取られます。
- 入力欄が空欄の場合は、フォルダーやファイル名は「NotRecognized」となります。

補足

- [編集] メニューから [元に戻す] を選択すると、最後に変更した内容を1つ前の状態に戻します。
- [編集] メニューから [リセット] を選択すると、すべての変更を元に戻します。

7 編集が済んだら、[保存] または [リサイクル] をクリックします。

[ファイル] メニューから [保存] を選択しても、ファイルを保存できます。

- 領域情報を書き換えて、修正日時の情報を書き加えてから、このツールで登録した保存先にスキャンした原稿ファイルとXMLまたはCSVファイルを保存します。
- 操作が終了すると、次のファイルが自動的に選択されます。必要に応じて、次の編集対象ファイルを探して、作業できます。
- 確認先選択ボックスに [リサイクル] が選択されている場合は、メイン画面の右下にある [リサイクル] を押すと、編集前のファイルを上書きして保存します。

注意

ファイル保存時のパス名が260文字を超えるような場合は、自動的に末尾から切り捨て259文字以内となるようにパス名を変更します（終端文字1文字と合わせて260文字になります）。

8 操作が終了したら、メイン画面の [ファイル] メニューから [終了] を選択します。

画面右上の [X] をクリックしても、このツールは終了します。

困ったときは

トラブルやエラーが発生すると、画面にメッセージが表示されます。また、TopAccessのアプリケーションログに操作状況が記録されます。困ったときは、メッセージやログを確認して、以下の説明を参考に問題を解消してください。ユーザーがトラブルの状況や対処方法が分からない場合は、管理者にご相談ください。

補足

TopAccessのスキャンログに、スキャンやOCR処理の実行状況が記録されます。

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
OCRオプションが必要です。	操作パネルからこのアプリケーションを起動する際に、このメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。 OCRオプション（ライセンス）が本機にインストールされていません。インストールするように、管理者に依頼してください。
セキュアPDFの強制暗号化が有効になっているため、動作できません。	操作パネルからこのアプリケーションを起動する際に、このメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。 スキャンした原稿を強制的に暗号化PDF（セキュアPDF）として保存するように本機を設定している場合は、このアプリケーションを使用できません。操作パネルから [設定/登録] - [セキュリティ設定] - [セキュアPDF] - [強制暗号化] を無効にするように、管理者に依頼してください。
スキャン（共有フォルダーへの保存）の実行権限がない、またはこの機能が無効です。	操作パネルからこのアプリケーションを起動する際に、このメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。 ユーザーがスキャン機能を利用できません。TopAccessから以下の設定を変更するように、管理者に依頼してください。 <ul style="list-style-type: none">• [スキャン機能] - [共有フォルダーへ保存] が [有効]（[ローカルファイル保存] をチェック）に設定されているルールを、ユーザーに割り当ててください。• [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] にアクセスし、[ローカルストレージデバイスへ保存] または [ローカルHDDへ保存] を有効にしてください。
マーカージェンレーションの保存先の登録がない、またはこの機能が無効です。	マルチクロップモードで起動した際、マーカージェンレーションの保存先の登録がない場合、またはマーカージェンレーションの機能が無効の場合にこのメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。TopAccessから以下の設定をするように、管理者に依頼してください。 <ul style="list-style-type: none">• [管理者] - [アプリケーション] - [アプリケーションリスト] - [e-BRIDGE Plus for Zone OCR] を開き、マーカージェンレーションリストを [有効] に設定してください。• [管理者] - [アプリケーション] - [アプリケーションリスト] - [e-BRIDGE Plus for Zone OCR] を開き、保存先の設定をしてください。

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
リモートおよびクラウド保存の実行権限がない、またはこの機能が無効です。	<p>操作パネルからこのアプリケーションを起動する際に、このメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。</p> <p>ユーザーにリモートおよびクラウド保存する権限がないか、リモートおよびクラウド保存先が無効になっています。</p> <p>TopAccessから以下の設定をするように、管理者に依頼してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [スキャン機能] - [リモート保存] が [有効] ([リモート保存] をチェック) に設定されているルールを、ユーザーに割り当ててください。 • [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] にアクセスし、[SMB保存] を有効にしてください。 • [管理者] - [セットアップ] - [共有フォルダーに保管] - [宛先] にアクセスし、[ネットワークフォルダーを使用する] を選択して [ファイル保存先] からリモート保存先を選択してください。 • [管理者] - [アプリケーション] にアクセスして、[アプリケーションリスト] に登録されているこのアプリケーションを起動し、クラウド保存先を設定してください。 <p> P.24 「保存先のクラウドサービスを設定する」</p>
ファイルまたはフォルダーが見つかりません。	<p>選択したフォルダーがクラウド上に存在しません。</p> <p>該当のフォルダーの状態を確認してください。</p>
フォルダーへの書き込み権限がありません。	<p>指定したフォルダーへの書き込み権限がありません。</p> <p>管理者に依頼してフォルダーへの書き込み権限を取得してください。</p>
ファイルサイズがオーバーしています。	<p>スキャンしたファイルのサイズが上限を超えています。</p> <p>一度にスキャンするページ数を減らしたり、[スキャン設定] 画面の設定を見直したりしてから、スキャンしなおしてください。</p>
クラウドストレージの空き容量が足りません。	<p>サインインユーザーのクラウドストレージ上の容量が足りません。</p> <p>クラウドストレージから必要のないファイルを削除してください。</p>
ネットワークエラーが発生しました。	<p>以下の可能性がありますので、それぞれ確認して対処してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • LANケーブルの外れや接続遮断などのネットワークエラーが発生しているため、クラウドサービスへ接続できません。管理者にお問い合わせください。 • クラウドストレージに空き容量がありません。クラウドストレージ上のファイル数を減らしてから、スキャンしなおしてください。問題が解決しない場合は、管理者にご相談ください。
まもなくお試し期間が終了します。残り日数：XX	<p>このアプリケーションのお試し期間が残りわずかです (Xには残りの日数を表示します)。</p> <p>お試し期間が終わるとこのアプリケーションは使用できません。このアプリケーションを使い続けるには、ライセンスを有効化するよう管理者に依頼してください。</p>

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
バックグラウンドアプリケーションが起動していません。 管理者にお問い合わせください。	操作パネルからこのアプリケーションを起動する際に、このメッセージが表示されます。このアプリケーションは終了します。 このアプリケーションが起動していません。TopAccessから [管理者] - [アプリケーション] にアクセスして、[アプリケーションリスト] に登録されているこのアプリケーションを起動するように、管理者に依頼してください。
すでに設定が削除されているため、操作を続行できません。	テンプレート/マーカープンスキャン選択画面で選択したマーカープンスキャン設定、またはすべてのマーカープンスキャン設定を管理者が削除した場合にこのメッセージを表示します。テンプレート/マーカープンスキャン選択画面に戻ります。マルチクロップモードの場合は、アプリケーションを終了します。利用可能なマーカープンスキャン設定を管理者に確認してください。
機能の設定が無効です。 管理者にお問い合わせください。	操作パネルでスキャンを開始する際に、このメッセージが表示されます。スキャン開始画面に戻ります。 ファイルが保存できるように本機が設定されていません。TopAccessから [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] - [ローカルストレージデバイスへ保存] または [ローカルHDDへ保存] を有効にするように、管理者に依頼してください。
もう一度やり直してください。	スキャンを開始して1枚目の原稿が自動原稿送り装置でつまった場合に、このメッセージが表示されます。スキャン開始画面に戻ります。2枚目以降がつまっただけの場合はこのメッセージを表示しないでスキャン操作が中断します。 つまった原稿を取り除いてセットしなおしてから、スキャン操作を再開してください。
このサイズは原稿送り装置を使用できません。	自動原稿送り装置を使ってスキャンを開始する際に、このメッセージが表示されます。スキャン操作が中断します。 原稿サイズと設定を変更してから、スキャン操作を再開してください。 以下の設定でセットしたサイズの原稿は自動両面原稿送り装置で給紙できません。 <ul style="list-style-type: none"> • [原稿サイズ] が [原稿サイズ自動検知] に設定されている。 • [原稿サイズ] が [サイズ直接入力]、かつ [両面] が [両面 (左/右とじ)] または [両面 (上/下とじ)] に設定されている。 • [原稿サイズ] が [サイズ直接入力] で、指定されている [たて] と [よこ] サイズがA5またはST (ステートメント) より小さい。
スキャンの上限枚数に達しました。	スキャンを開始または再開する際に、このメッセージが表示されます。スキャン操作が中断します。 ユーザーに割り当てられているスキャン可能枚数がなくなりましたので、スキャンできません。割り当て値を初期化するか、割り当て設定を変更するには、管理者に依頼してください。
全ページ白紙除去されました。	全ページで白紙原稿を検知したため、スキャン結果が削除されました。 文字やバーコードが認識できる原稿をスキャンしなおしてください。

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
バックグラウンドアプリケーションが停止したため、ジョブを続行できません。管理者にお問い合わせください。	<p>スキャン完了後にこのアプリケーションが停止した場合に、このメッセージが表示されます。テンプレート/マーカースキャン選択画面に戻ります。マルチクロップモードの場合は、スキャン開始画面に戻ります。</p> <p>このアプリケーションが起動していません。TopAccessから[管理者] - [アプリケーション] にアクセスして、[アプリケーションリスト] に登録されているこのアプリケーションを起動するように、管理者に依頼してください。起動を確認してから、原稿をスキャンしなおしてください。</p>
[xxxx*] 機能の設定が無効です。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	<p>スキャン開始後に、このメッセージが表示されます。スキャン開始後にファイルが保存できないように本機が設定されました。TopAccessから以下の設定をするように、管理者に依頼してください。設定変更を確認してから、原稿をスキャンしなおしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] - [ローカルストレージデバイスへ保存] または [ローカルHDDへ保存] を有効にしてください。 • [管理者] - [セットアップ] - [一般] - [機能設定] - [SMB保存] を有効にしてください。 • [管理者] - [セットアップ] - [共有フォルダーに保管] - [宛先] - [ネットワークフォルダーを使用する] を選択して [ファイル保存先] からリモート保存先を選択してください。
[xxxx*] ファイルの送信に失敗しました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	<p>ジョブをバックグラウンドで処理中にエラーが発生した場合に、このメッセージが表示されます。以下のいずれかの理由でSMBサーバーへのファイル送信が失敗して、ジョブは破棄されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ネットワークパスに誤りがある • ネットワークアクセスの認証に失敗した • ネットワークパスへの書き込み権限がない • 保存先の容量が不足している <p>ファイルの保存先（保存先パス、ログインユーザー名、パスワード、権限の設定を含む）を確認するように、管理者に依頼してください。保存先や設定を確認してから、原稿をスキャンしなおしてください。</p> <p>📖 P.26 「マーカースキャンの設定を選択する」</p> <p>📖 P.35 「テンプレートを設定する」</p>
-	<p>バックグラウンドでジョブを処理中にこのアプリケーションが停止した場合は、操作パネルにメッセージは表示されず、アプリケーションログに「[xxxx*] バックグラウンドアプリケーションが停止したため、ジョブを中止しました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)」と記録されます。</p> <p>保存したはずのファイルがない場合は、アプリケーションログを確認してから、TopAccess経由で[管理者] - [アプリケーション] にアクセスして、[アプリケーションリスト] に登録されているこのアプリケーションを起動するように管理者に依頼してください。または、管理者に依頼してアプリケーションログの確認と設定変更を依頼してください。起動を確認してから、原稿をスキャンしなおしてください。</p>
[xxxx*] ユーザー操作によりジョブをキャンセルしました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	<p>ジョブをバックグラウンドで処理中に、TopAccessでジョブがキャンセルされたり本機のシャットダウンが実行されたりした場合に、このメッセージが表示されます。</p> <p>ファイルが保存されていないことを確認したら、本機の起動を確認して、原稿をスキャンしなおしてください。</p>

メッセージ	トラブルの状況と対処方法
[xxxx*] タイムアウトによりジョブを中止しました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	バックグラウンドでのジョブの処理時間が90分を超えた場合に、このメッセージが表示されます。ファイルは保存されません。しばらく待ってから、再度スキャン操作を実行してください。
他のサービスが実行中のため、スキャンを開始できません。	原稿のスキャン開始時にエラーが発生した場合に、このメッセージが表示されます。他のサービスが実行中のため本機がスキャン実行に制限をかけていますので、スキャンを開始できません。しばらく時間を空けてから、原稿をスキャンしなおしてください。
[xxxx*] 他のサービスが実行中のため、ジョブを開始できません。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	ジョブのバックグラウンド処理開始時にエラーが発生した場合は、このメッセージが表示されます。他のサービスが実行中のため本機がジョブのバックグラウンド処理に制限をかけていますので、ジョブは破棄されます。しばらく時間を空けてから、原稿をスキャンしなおしてください。
[xxxx*] 領域の数が最大を超えたのでキャンセルしました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	<p>以下を目安にスキャン対象を減らしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • マーカーペンスキャンおよびテンプレートスキャン使用時は、一度に読み込む領域数が3,000までとなるようにする。 • マーカーペンスキャン（混在）使用時は、一度に読み込む領域が1,500までとなるようにする。
アンカー領域の登録に失敗しました。アンカーとして別の領域を再設定してください。	テンプレート設定の保存中に一定時間経過すると、保存を中止し、このメッセージが表示されます。再度「保存」をクリックして、設定を保存してください。
[xxxx*] ローカルストレージデバイスフルのエラーが発生しました。(スキャン開始時刻 HH:MM:SS)	スキャン完了後にファイルを保存する際に、このメッセージが表示されます。ファイルを保存する内蔵ストレージに空き容量がありません。管理者にご相談ください。
アプリケーションエラーが発生しました。アプリケーションは終了します。	上記以外の状況で何らかのエラーが発生すると、このメッセージが表示されます。本機を再起動してから、原稿をスキャンしなおしてください。再起動しても解決しない場合は、管理者にご相談いただくか、サービスエンジニアまたは弊社販売店にお問い合わせください。

* [xxxx] にはテンプレート名または「マーカーペンスキャン」が表示されます。

東芝デジタル複合機
e-BRIDGE Plus for Zone OCR 取扱説明書

東芝テック株式会社

